

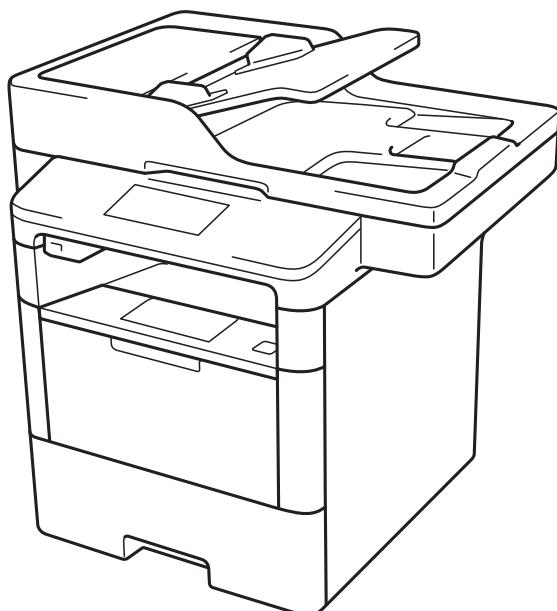
全体にかかる設定

bizhub 4020i

ユーザーズガイド応用編

ファックス送信

ファックス受信



転送・リモコン

レポート・リスト

USBダイレクトプリント

必要なときに
確認してほしいこと

目次

目次	2
本ガイドの表記	6
マークについて	6
商標について	7
免責	7
第1章 全体にかかわる設定	8
用紙設定	8
機能に合わせて使用するトレイを選択する	8
電話回線設定	9
手動で回線種別を設定する	9
利用中の電話回線の種別を調べる	9
音量設定	10
着信音量を設定する	10
ボタン確認音量を設定する〔ボタン確認音量＆ブザー音量〕	10
スピーカー音量を設定する	10
省エネ設定	11
トナーを節約する〔トナー節約モード〕	11
静音モードを設定する	11
スリープモードに入る時間を設定する〔スリープモード〕	11
ディープスリープモードについて	11
自動電源オフを設定する	12
画面設定	13
画面の明るさを調整する	13
照明ダウンタイマーを設定する	13
画面の表示言語を設定する〔日本語・English〕	13
日付・時刻設定	14
時計を合わせる〔時計セット〕	14
タイムゾーンを設定する	14
セキュリティ設定	15
セキュリティ機能の種類	15
使用できる機能を制限する〔セキュリティ機能ロック3.0〕	16
Active Directory®認証	19
LDAP認証	20
IPsec	21
設定変更できる機能を制限する〔セキュリティ設定ロック〕	21
ナンバー・ディスプレイ設定	23
ナンバー・ディスプレイサービスとは	23
ナンバー・ディスプレイを設定する	23
第2章 ファックス送信	24
便利な送信方法	24
通話後にファックスを送信する	24
他の動作中にファックス原稿を読み込む〔デュアルアクセス〕	24
同じ原稿を数か所に送信する〔同報送信〕	24
原稿を読み取りながら送信する〔リアルタイム送信〕	26
海外へ送信する〔海外送信モード〕	27
指定時刻に送信する〔タイマー送信〕	27

全体にかかわる設定

ファックス送信

ファックス受信

転送・リモコン

レポート・リスト

USBダイレクト

必要しないときに
ほじりこと

メモリー内の文書を同じ相手に一括送信する〔とりまとめ送信〕	28
便利な送信設定	29
送信したファクスに印刷される自分の名前と番号を登録する 〔発信元登録〕	29
発信元登録を消去する	29
送付書を付けて送信する	29
送付書のオリジナルコメントを登録する	30
送付書を印刷する	30
ファクス送信待ちを確認または解除する	30
画質を設定する	31
原稿濃度を設定する	31
ガラス面の読み取りサイズを設定する	32
両面原稿の読み取りを設定する	32
変更したファクス送信設定を保持する	33
便利な宛名指定機能	34
電話帳から検索する	35
同じ相手にもう一度送信する〔再ダイヤル〕	35
自動再ダイヤルを設定する	35
ファクス誤送信防止機能（ダイヤル制限）を設定する	37
IP ファクスの設定をする	38
IP ファクスを設定する	38
通信速度を設定する	38
特別設定について	39
特別回線対応を設定する	39
ダイヤルトーン検出の設定をする	39
現在の電話回線状態を確認する（電話回線診断）	39
安心通信モードを設定する	40
外線番号を設定する	40
第3章 ファクス受信	41
さまざまな受信方法	41
メモリー代行受信について	42
メモリー受信を設定する（メモリー保持）	42
メモリーに保持したファクスを印刷する	42
電話呼び出し機能を設定する	43
呼び出し中にファクスを受信する	43
通話後にファクスを受信する	44
親切受信で受信する	44
本製品に接続されている電話機からファクスを受信させる 〔リモート受信〕	45
受信時の設定	46
受信スタンプを設定する	46
受信したファクスを両面印刷する	46
自動的に縮小して印刷する	46
第4章 転送・リモコン	47
ファクス転送機能	47
他の場所のファクシミリに転送する	47
ファクスをパソコンで受信する〔PC ファクス受信〕	48

外出先から本製品を操作する：リモコン機能	49
暗証番号を設定する	49
外出先から本製品を操作する	49
リモコンコードで設定できる機能（コード一覧）	51
第 5 章 レポート・リスト.....	53
レポート・リストの種類	53
送信結果レポートを表示する	53
レポートの出力を設定する	55
送信結果レポートの出力を設定する	55
通信管理レポートの出力間隔を設定する	55
第 6 章 USB ダイレクトプリント.....	56
フォルダー構成やデータの一覧を印刷する	56
操作パネルから印刷の設定をする	57
第 7 章 必要なときに確認してほしいこと.....	58
文字を入力する	58
入力画面例	58
ひらがな / カタカナの文字の割り当て	59
機能ボタンの使いかた	59
入力制限（入力できる文字の種類や文字数）	60
入力例	60
用紙のこと	61
用紙の印刷可能範囲	61
原稿のこと	62
原稿サイズ	62
原稿の読み取り範囲	62
製品情報	63
製品情報の確認 / 印刷	63
設定機能の初期化	64
初期化とは	64
初期化のしかた	66
オプション	67
ペーパーフィーダーユニット (PF-P23/PF-P24)	67
本製品の仕様	68
基本設定	68
原稿サイズ	69
用紙仕様	69
ファクス	70
コピー	71
スキャナー	71
プリンター	72
インターフェイス	72
ダイレクトプリント	73
Wi-Fi® 認証について	74
簡単無線 LAN 設定	74

目 次

停電がおきたときは	74
動作環境	75
用語集	76
索 引	80

全体にかかる設定

ファクス送信

ファクス受信

転送・リモコン

レポート・リスト

USBダイレクト
プリント

必要なときには
確認してほしいこと

本ガイドの表記

マークについて

本文中では、マークについて以下のように表記しています。

	誤った取扱いをしたとき、死亡や重傷に結びつく可能性がある内容を示しています。
	誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・財産などの損害に結びつく可能性がある内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、物的損害の可能性がある内容を示しています。
	本製品をお使いになるにあたって、守っていただきたいことを説明しています。
	本製品の操作手順に関する補足情報を説明しています。
	「してはいけないこと」を示しています。
	「感電の危険があること」を示しています。
	「火災の危険があること」を示しています。
	「やけどの危険があること」を示しています。
⇒ XXX ページ 「XXX」	参照先を記載しています。(XXX はページ、参照先)
[XXX]	本製品の画面内の表示を表しています。
[XXX]	パソコン上の表示を表しています。

商標について

KONICA MINOLTA、KONICA MINOLTAロゴ、Giving Shape to Ideas、PageScope、およびbizhubは、コニカミノルタ株式会社の登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、SharePoint、Internet Explorer、Outlook、PowerPoint、Active Directory、OneNote、Windows phoneおよびOneDriveは、米国および／またはその他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。

Apple、Mac、Safari、iPad、iPhone、iPod touchおよびOS Xは、米国およびその他の国で登録されている、Apple Inc.の商標です。

PostScriptおよびPostScript 3は、米国および／またはその他の国におけるAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標または商標です。

Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fi DirectおよびWi-Fi Protected Accessは、Wi-Fi Alliance®の登録商標です。

Wi-Fi Protected SetupおよびWi-Fi Protected Setupのロゴは、Wi-Fi Alliance®の商標です。

Flickr®は、Yahoo! Inc.の登録商標です。

Android、Google Cloud Print、Google Drive、Google Play、Picasa Web AlbumsおよびGoogle Chromeは、グーグル社の商標です。これらの商標の使用には、グーグル社の許可が必要です。

Mopriaは、Mopria Alliance社の商標です。

UNIXは、米国およびその他の国におけるオープングループの登録商標です。

Linuxは、米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。

Evernoteは、Evernote社の商標であり、ライセンスの元で使用されています。

本マニュアルで言及したソフトウェアの製造企業は、独自のプログラムに固有のソフトウェアライセンス契約を有します。

その他すべての商標は、それぞれの所有者の財産です。

免責

ユーザーズガイドの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。

コニカミノルタ株式会社は、本プリンティングシステムおよびユーザーズガイドを運用した結果の影響につきましては、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

ユーザーズガイドに記載されている情報は、予告なく変更される場合があります。

用紙設定

機能に合わせて使用するトレイを選択する

機能によって使用するトレイを設定することができます。給紙するトレイに優先順位を付ける場合は、【A > B】を選択するとAトレイ、Bトレイの順に用紙を給紙します。

機能の種類	内容	操作
コピー	<p>コピーするときに使用する用紙トレイを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原稿台ガラスからコピーする場合 優先順位を付けている場合、優先されるトレイに用紙がなくなったときは自動的に優先順位の高いトレイから給紙されます。 ADFからコピーする場合 原稿サイズがA4の場合、優先順位に関係なくA4が設定されているトレイから給紙されます。 	【トレイ選択：コピー】
ファックス	<p>受信したファックスを印刷するときに使用する用紙トレイを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 用紙が用紙トレイにない場合 【用紙を送れません】が表示されて印刷することができなくなります。⇒ユーザーズガイド 基本編を参照してください。 	【トレイ選択：ファックス】
プリンター	<p>パソコンに接続してプリンターとして使用するときの用紙トレイを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定した内容とプリンタードライバーの用紙トレイの設定が一致していない場合 プリンタードライバーの設定が優先されます。 ただし、プリンタードライバーの設定が【自動選択】の場合に本製品で【用紙トレイ #1のみ】、【多目的トレイのみ】、【用紙トレイ #2のみ】、【用紙トレイ #3のみ】が設定されているときは、これらのトレイが優先されます。 	【トレイ選択：プリント】

1  → 【トレイ設定】を押した後、設定する内容を選ぶ

表の「操作」を参照してください。

2 用紙トレイを選ぶ

3  を押す

電話回線設定

手動で回線種別を設定する

自動で回線種別を設定できなかったときや、引越しなどで電話がからなくなったりしたときは、以下の手順で、利用中の電話回線に合わせて設定します。

1 → 【全てのメニュー】 → 【初期設定】 → 【回線種別設定】を押す

2 回線種別を選ぶ

回線種別の詳細については、⇒9ページ「利用中の電話回線の種別を調べる」を参照してください。

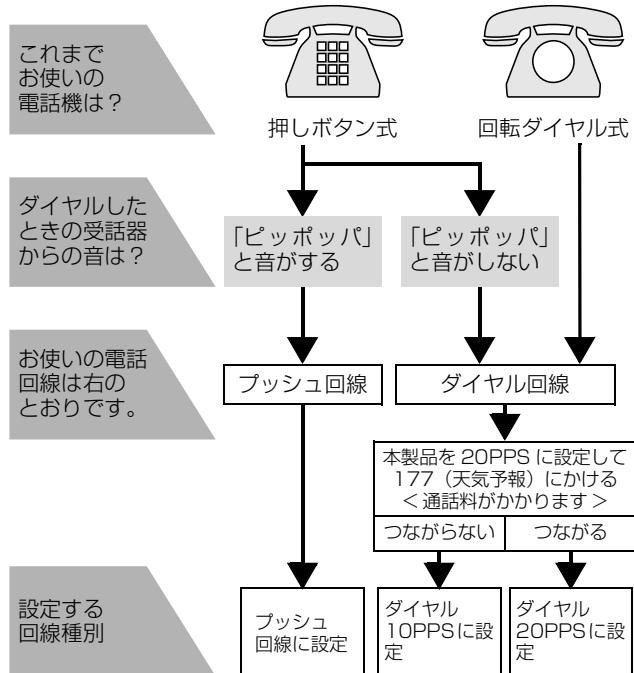
3 を押す

補・足

- プッシュ回線またはISDN回線をお使いの場合は、【プッシュ回線】を選択してください。
- ひかり電話をお使いの場合は【プッシュ回線】を選択してください。
- 設定を誤ると、間違った相手にかかったり、ファクスが送信できないことがありますのでご注意ください。
- IP電話対応機器（ADSLモデム、ルーター、IPフォンアダプターなど）に本製品を接続する場合、本製品の回線種別設定は、電話会社と契約している回線種別に手動で設定してください。回線種別を自動で設定した場合、「110」、「119」やフリーダイヤルなどに電話をかけられなったり、ファクスの送信ができないなくなる場合があります。

利用中の電話回線の種別を調べる

回線種別は、以下の手順で調べることができます。もし、分からぬときは、ご利用の電話会社にお問い合わせください。



補・足

- 構内交換機（PBX）など一般と異なる回線についている場合は、自動設定できないことがあります。
- 一度自動設定すると、電源を入れ直しても、再度回線種別の自動設定は行われません。設定し直したいときは、手動で設定を変更してください。

音量設定

着信音量を設定する

呼び出しが鳴る音量を調節します。

- 1** → 【全てのメニュー】 → 【基本設定】 → 【音量】 → 【着信音量】を押す
- 2** 音量を選ぶ
- 3** を押す

ボタン確認音量を設定する 〔ボタン確認音量＆ブザー音量〕

ボタン確認音（ダイヤルボタンなどを押したときに鳴る音）やブザー音（間違った操作をしたとき、紙づまりなど本製品に異常が起きたとき、ファックス送受信が終了したときに鳴る音）の音量を調節します。

- 1** → 【全てのメニュー】 → 【基本設定】 → 【音量】 → 【ボタン確認音量】を押す
- 2** 音量を選ぶ
- 3** を押す

補足

【切】（ボタン確認音なし）を選んでも、本製品に異常が起きたときはブザー音が鳴ります。

スピーカー音量を設定する

手動でファックスを送信するとき、相手から「ピー」という音が聞こえる場合の音量を調節します。

- 1** → 【全てのメニュー】 → 【基本設定】 → 【音量】 → 【スピーカー音量】を押す
- 2** 音量を選ぶ
- 3** を押す

省エネ設定

トナーを節約する(トナー節約モード)

トナーを節約したいときは、トナー節約モードを【オン】に設定します。【オン】に設定すると印字が薄くなります。

- 1**  → 【全てのメニュー】 → 【基本設定】 → 【省エネモード】 → 【トナー節約モード】を押す
- 2** 【オン】を押す
- 3**  を押す

静音モードを設定する

静音モードは、本製品の印刷時の動作音を静かにすることができます。静音モードが【オン】のときは、印字速度が遅くなります。

お買い上げ時の初期設定は、【オフ】に設定されています。

- 1**  → 【全てのメニュー】 → 【基本設定】 → 【省エネモード】 → 【静音モード】を押す
- 2** 【オン】を押す
- 3**  を押す

スリープモードに入る時間を設定する(スリープモード)

本製品は、受信したファクスの出力や印刷、コピーがすぐに開始できるよう常に一定の電気を供給しています。スリープモードは、設定した時間内にファクスの受信や印刷、コピーが行われなかったときにスリープ状態にして消費電力を減らします。ただし、ファクスの送受信には影響ありません。

- 1**  → 【全てのメニュー】 → 【基本設定】 → 【省エネモード】 → 【スリープモード】を押す
- 2** 画面に表示されているテンキー、または操作パネルのダイヤル(数字)ボタンでスリープモードになるまでの時間を指定する
分単位で指定します。
- 3** 【OK】を押す
- 4**  を押す

補・足

- 設定できる時間は、最大50分です。
- スリープモードのときに、コピーや印刷をしようとすると、ウォーミングアップのために多少時間がかかります。

ディープスリープモードについて

本製品がスリープモードの場合、一定の時間内にファクスの受信や印刷、コピーが行われないと、自動的にディープスリープモードに切り替わります。ディープスリープモードでは、スリープモードより少ない消費電力となり、画面が消えて  が点滅します。タッチパネルを押すか、パソコンからのデータ受信、ファクス受信をすると、自動的に起動します。

自動電源オフを設定する

本製品がディープスリープモードの状態で一定の時間が経過すると、自動的に電源をオフにすることができます。

自動で電源がオフになった状態から本製品を起動するには、を押して電源をオンにします。

ディープスリープモードから自動的に電源をオフにするまでの時間を選択することができます。

お買い上げ時の初期設定は、【オフ】に設定されています。

補足

【無線LAN有効】が【オン】になっている場合、もしくは【セキュリティ印刷】に印刷データがある場合は、自動電源オフ機能は使用できません。

- 1**  → 【全てのメニュー】 → 【基本設定】 → 【省エネモード】 → 【自動電源オフ】を押す
- 2** 自動的に電源をオフにするまでの時間を選ぶ
- 3**  を押す

画面設定

画面の明るさを調整する

画面が見えにくいときは、明るさを調整します。

- 1**  → 【全てのメニュー】 → 【基本設定】
→ 【画面の明るさ】 → 【画面の明るさ】
を押す
- 2** 明るさを選ぶ
- 3**  を押す

照明ダウンタイマーを設定する

画面のバックライトを暗くするまでの時間を設定できます。(暗くなっても画面の表示は確認できます。)お買い上げ時の設定は【切】で、バックライトが常時点灯します。

- 1**  → 【全てのメニュー】 → 【基本設定】
→ 【画面の明るさ】 → 【照明ダウン
タイマー】 を押す
- 2** 時間を選ぶ
- 3**  を押す

画面の表示言語を設定する （日本語・English）

画面に表示される言語を、英語または日本語に切り替えることができます。
お買い上げ時の設定は、日本語表示です。

英語表示に切り替える

英語による説明を以下に示します。
This setting allows you to change LCD language to English.

- 1**  → 【全てのメニュー】 → 【初期設
定】 → 【表示言語設定】 を押す
(Press  → 【全てのメニュー】 → 【初期設
定】 → 【表示言語設定】)
- 2** 【English】 を押す
(Press 【English】)
- 3**  を押す
(Press 

日本語表示に切り替える

- 1**  → 【All Settings】 → 【Initial Setup】
→ 【Local Language】 を押す
- 2** 【日本語】 を押す
- 3**  を押す

日付・時刻設定

時計を合わせる【時計セット】

現在の日付と時刻を合わせます。この日付と時刻は画面に表示されます。また、ファクス送信したとき、発信元登録がされていれば相手側の用紙にも日付と時刻が印刷されます。

日付を合わせる

1  → 【全てのメニュー】 → 【初期設定】 → 【時計セット】 → 【日付】を押す

2 以下の手順で日付を設定する

- 1 年号（西暦の下2桁）を入力
例：2016年の場合は【1】、【6】を入力
- 2 【OK】を押す
- 3 月（2桁）を入力
例：8月の場合は【0】、【8】を入力
- 4 【OK】を押す
- 5 日付（2桁）を入力
例：21日の場合は【2】、【1】を入力
- 6 【OK】を押す

3  を押す

時刻を合わせる

1  → 【全てのメニュー】 → 【初期設定】 → 【時計セット】 → 【時刻】を押す

2 時刻（24時間制）を入力する

例：午後3時5分の場合は【1】、【5】、【0】、【5】を入力

3 【OK】を押す

4  を押す

補-足

- 時刻はあくまで目安ですので、気になるときは1ヶ月おきに合わせてください。
- 60時間以上停電した場合は、日付と時刻の再設定をしてください。

タイムゾーンを設定する

お住まいの国のタイムゾーンを設定します。ここで設定される値は、世界標準時間との時差になります。
(例：日本は、UTC+09:00)

ここで設定したタイムゾーンは、インターネット経由で送信したドキュメントに使用されます。

1  → 【全てのメニュー】 → 【初期設定】 → 【時計セット】 → 【タイムゾーン】を押す

2 タイムゾーンを入力して【OK】を押す

3  を押す

補-足

- UTC（協定世界時）GMT（グリニッジ標準時）とほぼ同じ時刻ですが、全世界で時刻を記録する際に使われる公式な世界標準時刻のことです。1972年1月1日より使用されています。
- お使いのウェブブラウザを使用して設定することもできます。詳しくは⇒ユーザーズガイド パソコン活用&ネットワークを参照してください。

セキュリティ設定

パスワードを登録して利用できる機能をユーザーごとに制限したり、設定変更を制限したりすることができます。

セキュリティ機能の種類

本製品のセキュリティ機能は以下の2種類があります。使用を制限したい内容に合わせて種類を選択してください。

補足

- パスワードが登録済みの場合、再登録の必要はありません。
- 登録したパスワードを忘れてしまったときは、カスタマーサポートへご連絡ください。

機能	対象	制限・設定できる内容	参照
セキュリティ機能ロック3.0	登録したユーザー(200人まで)または一般ユーザー	使用できる機能を制限 <ul style="list-style-type: none"> • ファックス送信 • ファックス受信 • コピー • スキャン※1 • USB ダイレクトプリント • USB ダイレクトスキャン • プリント※2 • 印刷枚数 • ページカウンター 	⇒16ページ「使用できる機能を制限する〔セキュリティ機能ロック3.0〕」
セキュリティ設定ロック	すべてのユーザー	 メニューボタンからのすべてのメニューの設定変更を制限	⇒21ページ「設定変更できる機能を制限する〔セキュリティ設定ロック〕」

※1：iPrint&Scan を経由するスキャンジョブも含みます。

※2：Google Cloud Print™、iPrint&Scan を経由する印刷ジョブも含みます。Google Cloud Print™、iPrint&Scan は一般モードの設定が適用されます。

使用できる機能を制限する [セキュリティ機能ロック3.0]

管理者が「ユーザー名」と「パスワード」を登録してユーザーに割り振り、使用できる機能をユーザーごとに制限することができます。セキュリティ機能ロックは、初期の設定や使用制限管理をネットワーク上のパソコンから行うため、本製品もネットワークに接続されている必要があります。ご利用になる場合は、本製品をいつたんネットワークに接続してください。

セキュリティ機能ロック3.0の設定やユーザー登録は、ウェブブラウザーを使用して行います。詳しい操作方法は、⇒ユーザーズガイド パソコン活用&ネットワークを参照してください。

設定後は、本製品の操作パネルでユーザーを切り替えることができます。

補足

- 管理者だけが各ユーザーの機能ロックのオン/オフ、制限管理、変更を行えます。設定または変更するには、管理者パスワードが必要です。パスワードを忘れた場合は、カスタマーサポートにご連絡ください。
- セキュリティ機能ロックを利用する場合は、個別ユーザー以外の一般ユーザー用に、「一般モード」の使用制限を設定してください。
- セキュリティ機能ロックがオンの場合でも、【ファクス画質/両面ファクス/原稿濃度/同報送信/タイマー送信/リアルタイム送信/送付書/海外送信モード/原稿台スキャンサイズ】は設定できます。ただし、ファクス送信が制限されている場合は、すべてのファクス設定がロックされます。
- ファクス受信無効のユーザーが設定されているとき、受信ファクスはメモリーに蓄積されます。その後、ファクス受信が有効なユーザーに切り替わったときに、蓄積されたファクスを印刷するか確認するメッセージが表示されます。

セキュリティ機能ロックを使用する前に

ネットワーク上のパソコンでウェブブラウザーを起動し、セキュリティ機能ロックの設定画面を表示させます。

補足

ここで設定するパスワードは、本製品の設定画面を表示するためのものです。セキュリティ機能ロックの管理者パスワードではありません。

1 本製品のIPアドレスを調べる

設定には、本製品のIPアドレス情報が必要です。あらかじめ、【ネットワーク設定リスト】を印刷して、IPアドレスをご確認ください。
⇒53ページ「レポート・リストの種類」

2 パソコンでウェブブラウザーを起動する

3 アドレス欄に、本製品のIPアドレスを入力する

例：192.168.1.2の場合は、
「http://192.168.1.2/」と入力します。

4 【ログイン】に管理者パスワードを入力し、➡をクリックする

初期パスワードは、initpassです。



セキュリティ機能ロックをオン/オフにする

セキュリティ機能ロックをオンになると、一般モードが有効になります。個別ユーザーの設定を有効にするには、⇒18ページ「ユーザーを切り替える」を参照してください。

- 1** [管理者設定] タブの [制限機能] をクリックする
- 2** [セキュリティ機能ロック] を選択する
- 3** [OK] をクリックする

補足

セキュリティ機能ロックがオンに設定されると、待ち受け画面の左上にセキュリティ機能ロックのアイコンが表示されます。



セキュリティ機能ロックを設定する

一般モードとグループの制限機能を設定します。グループを個々のユーザーに割り当てることで各ユーザーの機能制限が可能となります。各ユーザーにはパスワードを登録してください。セキュリティ機能ロックを有効にすると、個別のユーザーに切り替えない限り、本製品は常時一般モードとなります。

- 1** [管理者設定] タブの [機能制限] をクリックする
- 2** [ユーザーリスト/機能制限] にグループ名またはユーザー名を入力する
14文字まで入力できます。

機能制限

この画面ではユーザーごとに機能利用許可/禁止を設定することができます。機能制限画面にて設定ください。

ユーザー名	機能									
	印刷	コピー	スキャン	ファックス	送信	受信	ダイレクトプリント	スキャン	アップロード	ダウンロード
一般モード	<input checked="" type="checkbox"/>									
1	<input checked="" type="checkbox"/>									
2	<input checked="" type="checkbox"/>									
3	<input checked="" type="checkbox"/>									
4	<input checked="" type="checkbox"/>									
5	<input checked="" type="checkbox"/>									
6	<input checked="" type="checkbox"/>									

- 3** [一般モード] で使用制限したい機能のチェックを外す
一般モードは、本製品を使用するときにパスワード入力を必要としないモードです。
- 4** このグループまたはユーザーで使用制限したい機能のチェックを外す
印刷できるページ枚数を制限するには、[枚数制限] の [オン] にチェックを入れて、[最大ページ数] に枚数を入力します。
- 5** 必要に応じて、手順2~4を繰り返し、他のグループまたはユーザーを登録する

- 6** 画面下部の【OK】をクリックする
 - 7** 【ユーザーリスト】をクリックする
 - 8** 【ユーザーリスト】に、ユーザー名を入力する
20文字まで入力できます。
- ユーザーリスト

ユーザーリスト欄にPCログイン名を入力してください。PCから印刷する際に、PCログイン名によってユーザー認証します。

ユーザーリスト	パスワード	カードID	ユーザーリスト機能制限
1			… ▾
2			… ▾
3			… ▾
4			… ▾
5			… ▾
6			… ▾
7			… ▾
- 9** 【パスワード】に、このユーザー用のパスワードを4桁の数字で入力する
 - 10** 【ユーザーリスト/機能制限】のドロップダウンリストから、手順2で設定したグループを選択する
 - 11** 必要に応じて、手順8～10を繰り返し、他のユーザーを登録する
 - 12** 画面下部の【OK】をクリックして登録を終了する

ユーザーを切り替える

セキュリティ機能ロックがオンのときに、登録されている個別のユーザーが本製品を使用できるように切り替えます。

- 1** 待ち受け画面の【一般モード】または【XXXXX】を押す

- 2** 【ユーザーチェンジ】を押す

- 3** 切り替えたいユーザーを選ぶ

- 4** このユーザー用に設定されたパスワードを入力して、【OK】を押す

補足

- 一般モードに戻るには、を押し、【一般モードへ切替】を押します。
- 個別のユーザーが本製品を使用した後、一般モードに戻さず放置しても、1分後に自動で一般モードに戻ります。

Active Directory®認証

Active Directory® 認証機能を有効にすることにより、本製品の使用を制限することができます。Active Directory®認証が有効に設定されている場合、操作パネルがロックされます。本製品を使用するには、ユーザーID、パスワードを入力し、認証を行う必要があります。認証に成功すると以下の機能が実行されます。

- メモリーに蓄積された印刷データまたは受信ファクスを印刷する
- スキャンデータをEメールで送信するためのEメールアドレスを、LDAPサーバーから取得する

Active Directory®認証は、ウェブブラウザーを経由して設定することができます。詳しくは、⇒ユーザーズガイド パソコン活用＆ネットワークを参照してください。

Active Directory®認証をオン/オフにする

- 1** パソコンでウェブブラウザーを起動する
- 2** アドレス欄に、本製品の IP アドレスを入力する
例：192.168.1.2の場合は、「http://192.168.1.2/」と入力します。
- 3** [管理者設定] タブの [制限機能] をクリックする
- 4** [Active Directory認証] または [オフ] を選択する
- 5** [OK] をクリックする

補足

- Active Directory®認証を利用するには、Active Directory®サーバーの設定が必要です。
- Active Directory® サーバー設定後に操作パネルロックが有効になります。

LDAP認証

LDAP認証機能を有効にすることにより、本製品の使用を制限することができます。

LDAP認証が有効に設定されている場合、操作パネルがロックされます。本製品を使用するにはユーザーID、パスワードを入力し、認証を行う必要があります。

- メモリーに蓄積された印刷データまたは受信ファクスを印刷する
- スキャンデータをEメールで送信するためのEメールアドレスを、LDAPサーバーから取得する

LDAP認証は、ウェブブラウザーを経由して設定することができます。詳しくは、⇒ユーザーズガイド パソコン活用&ネットワークを参照してください。

LDAP認証をオン/オフにする

- 1** パソコンでウェブブラウザーを起動する
- 2** アドレス欄に、本製品のIPアドレスを入力する
例：192.168.1.2の場合は、「http://192.168.1.2/」と入力します。
- 3** [管理者設定] タブの [制限機能] をクリックする
- 4** [LDAP認証] または [オフ] を選択する
- 5** [OK] をクリックする

補足

- LDAP認証を利用するには、LDAPサーバーの設定が必要です。
- LDAPサーバーとLDAP検索設定後に操作パネルロックが有効になります。

IPsec

IPsec (Internet Protocol Security) は、IP プロトコルのオプション機能で、IP パケット単位でデータの改ざん防止や、秘匿機能を提供するセキュリティプロトコルです。本機能はネットワーク上をいきかうデータ、例えばパソコンからプリンターに送られる印刷データ等を、IPsec を使用して暗号化します。ネットワーク層で暗号化を行うため、その上位のプロトコルを利用するアプリケーションソフトは、IPsec を意識する必要なく IPsec を利用することができます。

IPsec は次の機能をサポートしています。

- IPsec 送受信
- IPsec 設定

詳しくは、⇒ユーザーズガイド パソコン活用＆ネットワークを参照してください。

設定変更できる機能を制限する [セキュリティ設定ロック]

セキュリティ設定ロック機能の設定の流れを説明します。

補足

セキュリティ設定ロックが設定されている場合でも、各モードボタンから一時的に設定変更することは可能です。また、ウェブブラウザーを使用して設定することもできます。

STEP 1 パスワードを登録する

セキュリティ設定ロックを管理するためのパスワードを登録します。

⇒ 22 ページ 「パスワードを登録する」



STEP 2 設定をオンにする

セキュリティ設定ロックを有効にします。

⇒ 22 ページ 「セキュリティ設定ロックをオンにする」

パスワードを登録する

- 1**  → 【全てのメニュー】→【基本設定】→【セキュリティ設定ロック】を押す
- 2** 以下の手順でパスワードを入力する
1 パスワード(4桁)を入力→【OK】
2 再度パスワードを入力→【OK】
- 3**  を押す

セキュリティ設定ロックをオンにする

- 1**  → 【全てのメニュー】→【基本設定】→【セキュリティ設定ロック】→【ロック オフ⇒オン】を押す
- 2** パスワード(4桁)を入力して、【OK】を押す

パスワードを変更する

- 1**  → 【全てのメニュー】→【基本設定】→【セキュリティ設定ロック】→【パスワード設定】を押す
- 2** 以下の手順でパスワードを変更する
1 現在のパスワード(4桁)を入力→【OK】
2 新しいパスワード(4桁)を入力→【OK】
3 再度新しいパスワード(4桁)を入力→【OK】
- 3**  を押す

セキュリティ設定ロックをオフにする

- 1** 待ち受け画面の  を押す
- 2** パスワード(4桁)を入力して、【OK】を押す

ナンバー・ディスプレイ設定

本製品では、ご利用の電話会社との契約によって「ナンバー・ディスプレイサービス」をご利用いただくことができます。

ナンバー・ディスプレイサービスとは

電話やファックスがかかるときには相手の電話番号が、電話に出る前に画面に表示されるサービスです。サービスの詳細については、ご利用されている電話会社にお問い合わせください。

本製品ではナンバー・ディスプレイサービスで以下の機能が利用できます。

- 電話番号表示機能
電話がかかってくると、相手の電話番号が画面に表示されます。
- 名前表示機能
電話帳に名前が登録してある相手から電話がかかってくると、相手の名前と電話番号が画面に表示されます。
- 着信履歴機能
電話がかかってくると、相手の電話番号を記録します。(30件まで記録できます。31件以上になると、古い順に削除されます。)
着信履歴の電話番号を電話帳に登録する方法は、⇒ユーザーズガイド 基本編「発信履歴・着信履歴から電話帳に登録する」を参照してください。

補-足

- 本製品はキャッチホン・ディスプレイサービスには対応していません。
- ISDN回線を利用されているときは、ターミナルアダプターの設定が必要です。
- IP電話を利用されているときは、VoIPアダプター(IP電話対応機器)の設定が必要です。
- 構内交換機(PBX)に接続しているときは、ナンバー・ディスプレイサービスを利用できません。
- ブランチ接続(並列接続)をしているとナンバー・ディスプレイは正常に動作しません。⇒安全にお使いいただくためにを参照してください。
- 電話回線にガス検針器やホームセキュリティ装置などが接続されている場合は、ナンバー・ディスプレイ機能が正常に動作しないことがあります。

ナンバー・ディスプレイを設定する

電話番号の表示方法は以下の中から選択できます。

- 【オン】
本体の画面に相手の電話番号または名前が表示されます。
- 【オフ】
相手の電話番号または名前が表示されません。
- 【外付け電話優先】
本製品に接続されている電話機に相手の電話番号または名前が表示されます。

1  → 【全てのメニュー】→【ファックス】→【ナンバーディスプレイ】を押す

2 電話番号の表示方法を選ぶ

3  を押す

注意

【外付け電話優先】で使用する場合、本製品の受信モードを【F/T=自動切換え】に設定すると、本製品と接続されている電話機の仕様により、ナンバー・ディスプレイの表示時間が短くなる電話機があります。

補-足

- ナンバー・ディスプレイサービスを利用するには、電話会社との契約が必要です。契約していない場合は【オフ】にしてください。
- ナンバー・ディスプレイサービスを本製品で利用したいときは、本製品のナンバー・ディスプレイの設定を【オン】、本製品と接続されている電話機のナンバー・ディスプレイの設定をオフにしてください。
- ナンバー・ディスプレイサービスを本製品と接続されている電話機で利用したいときは、本製品のナンバー・ディスプレイの設定を【外付け電話優先】、本製品と接続されている電話機のナンバー・ディスプレイの設定をオンにしてください。
- 【オフ】に設定した場合、着信履歴は本製品に残りません。

2 ファクス送信

便利な送信方法

通話後にファクスを送信する

相手と通話した後にファクスを送信します。

- 1 相手先のファクシミリのスタートボタンを押してもらう
- 2 原稿をセットして、【ファクス】を押す
- 3 【オンフック】を押す
- 4 【スタート】を押す
- 5 【送信】を押す
- 6 本製品に接続されている電話機の受話器を戻す

他の動作中にファクス原稿を読み込む 〔デュアルアクセス〕

ファクスの送受信中や印刷中でも、次に送りたいファクス原稿の読み込みができます。そのときもファクス画質などの設定ができます。ファクス原稿の読み込み中、画面には新しいジョブ番号が表示されます。

補足

ファクスを手動で送信しているときや、リアルタイム送信時は、次に送りたいファクス原稿の読み込みができません。

同じ原稿を数か所に送信する 〔同報送信〕

指定した複数の相手に同じ原稿を送信します。送信先は、ダイヤルボタンで直接入力するか、または、あらかじめ登録されている電話帳、グループダイヤルから指定します（ダイヤルボタンで最大50か所、電話帳、グループダイヤルと合わせて最大350か所まで指定できます）。

補足

同報送信と組み合わせることができないファクスの設定は、キーの色が灰色表示されます。

- 1 原稿をセットする

- 2 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。

- 3 【ファクス送信】を押す

- 4 【設定変更】を押す

- 5 上下にフリック、または【▲】/【▼】を押して【同報送信】を押す

- 6 【番号追加】を押す

- 7 番号の入力方法を選択する

【手動入力】/【電話帳から選択】/【検索して選択】から選びます。

【手動入力】を選んだ場合

8 相手先のファクス番号を入力して、 【OK】を押す

- 次の相手先を選ぶ場合
⇒手順6へ
- すべての相手先を選び終わった場合
⇒手順9へ

【電話帳から選択】を選んだ場合

8 リストから相手先を選んでチェック マークを付けて、【OK】を押す

補足

グループダイヤルで相手先を指定する場合には、事前にグループダイヤルを設定する必要があります。
⇒ユーザーズガイド基本編 第2章の「グループダイヤルを登録する」を参照してください。

- 次の相手先を選ぶ場合
⇒手順6へ
- すべての相手先を選び終わった場合
⇒手順9へ

【検索して選択】を選んだ場合

8 電話帳に登録した名前の読みがな（先頭頭文字で可）を入力して【OK】を 押し、表示されたリストから相手先 を選び、送信するファクス番号を選ぶ

- 次の相手先を選ぶ場合
⇒手順6へ
- すべての相手先を選び終わった場合
⇒手順9へ

9 送信する相手先を確認し、【OK】を 押す

10 【スタート】を押す

ADFに原稿をセットしたときは、原稿の読み取りが開始され、ファクスが送られます。原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、原稿の読み取りが終わると、【次の原稿はありますか？ /はい/いいえ】と表示されます。

- 送る原稿が1枚の場合⇒手順12へ
- 送る原稿が複数枚の場合⇒手順11へ

11 【はい】を押し、原稿台ガラスに次の 原稿をセットして【OK】を押す

送りたい原稿をすべて読み取るまでこの手順を繰り返し、読み取りが終わったら手順12に進みます。

12 【いいえ】を押す

すべての相手先を送り終えると、自動的に「同報送信レポート」が印刷されます。

補足

- 送信途中でキャンセルするには、を押してからを押してください。画面に送信先をキャンセルするかどうかを確認するメッセージが表示されるので、画面の表示に従ってください。
- 送信先を間違えたときは、を押して最初から入力し直してください。
- 送信できる枚数はメモリーの残量によって制限されます。
- 送信先を重複して指定したときは、重複した相手先が自動的に削除されます。
- 原稿読み込み中に【メモリがいっぱいです】と表示されたら、【中止する】またはを押して中止してください。原稿が複数枚の場合は、【読み取り分送信】を押して読み込まれた分だけ送信することもできます。

原稿を読み取りながら送信する 〔リアルタイム送信〕

原稿を読み取りながら送信します。送信状況を確認しながら送信できます。
ここで変更した設定は、ファクス送信が終わると元に戻ります。設定を保持することもできます。⇒33ページ「変更したファクス送信設定を保持する」を参照してください。

補-足

リアルタイム送信と組み合わせることができないファクスの設定は、キーの色が灰色表示されます。

1 原稿をセットする

2 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。

3 【ファクス送信】を押す

4 【設定変更】を押す

5 上下にフリック、または【▲】 / 【▼】 を押して【リアルタイム送信】を押す

6 リアルタイム送信の設定を選ぶ

- ・【オン】：リアルタイム送信で送ります。
- ・【オフ】：通常の送信で送ります。

7 【OK】を押す

8 相手のファクス番号を入力する

9 【スタート】を押す

補-足

- リアルタイム送信を【オン】に設定すると、原稿はメモリーに蓄積されません。
- リアルタイム送信で指定できる相手先は1件です。
- リアルタイム送信が【オン】に設定されている場合、タイマー送信は設定することができません。
- 原稿台ガラスから送信する場合、原稿は1枚しか送信できません。
- 原稿台ガラスから送信する場合は、自動再ダイヤルはされません。
- リアルタイム送信が【オフ】に設定されていても、メモリーがいっぱいになるとリアルタイム送信されます。
- IP ファクスを使ってリアルタイム送信はできません。データコネクト設定のIPファクスが【専用】、または【優先】の場合、メモリー送信となります。詳しくは、⇒38ページ「IPファクスの設定をする」を参照してください。

海外へ送信する【海外送信モード】

海外へ送信するときは、回線の状況などによって正常に送信できないことがあります。このようなときには海外送信モードを【オン】に設定してから送信を行うと、通信エラーが少なくなります。

1 原稿をセットする

2 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。

3 【ファクス送信】を押す

4 【設定変更】を押す

5 上下にフリック、または【▲】 / 【▼】を押して【海外送信モード】を押す

6 【オン】を押す

7 【OK】を押す

8 相手先のファクス番号を入力する

9 【スタート】を押す

ファクスが送られます。

指定時刻に送信する【タイマー送信】

24時間以内の指定した時刻に、原稿を自動的に送信することができます。

補足

タイマー送信と組み合わせることができないファクスの設定は、キーの色が灰色表示されます。

1 原稿をセットする

2 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。

3 【ファクス送信】を押す

4 【設定変更】を押す

5 上下にフリック、または【▲】 / 【▼】を押して【タイマー送信】を押す

6 【タイマー送信】を押して、【オン】を押す

7 【指定時刻】を押す

8 送信時刻を入力して、【OK】を押す

送信時刻は、24時間制で入力します。
午後3時5分の場合は【1】、【5】、【0】、【5】と入力します。

9 【OK】を押す

10 相手のファクス番号を入力する

ファクス番号を入力するか、【電話帳】または【履歴】から相手先を選択

- 【電話帳】の場合は、相手先を選択し【送信先に設定】を押します。
- 【履歴】の場合は、発信履歴または着信履歴から相手先を選択し【送信先に設定】を押します。

11 【スタート】を押す

ADFに原稿をセットしたときは、原稿の読み取りが開始されます。

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、原稿の読み取りが終わると、【次の原稿はありますか？ /はい/いいえ】と表示されます。

- 送る原稿が1枚の場合⇒手順13へ
- 送る原稿が複数枚の場合⇒手順12へ

12 【はい】を押し、原稿台ガラスに次の原稿をセットして【OK】を押す

送りたい原稿をすべて読み取るまでこの手順を繰り返し、読み取りが終わったら手順13に進みます。

13 【いいえ】を押す

補足

- タイマー送信が終了すると、自動的にタイマー送信レポートが印刷され、送信結果が確認できます。
- メモリーに読み込める原稿枚数は原稿の内容によって異なります。
- 相手が話し中などで送信できなかったときは、5分おきに3回まで再ダイヤルします。
- リアルタイム送信が【オン】に設定されている場合、タイマー送信は設定できません。リアルタイム送信を【オフ】に設定してください。
⇒26ページ「原稿を読み取りながら送信する〔リアルタイム送信〕」を参照してください。
- 電源をOFFにした状態が60時間を超えると、タイマー送信設定（送信時刻）とともにファクスデータ（タイマー送信データ）がメモリーから消去されることがあります。

メモリー内の文書を同じ相手に一括送信する〔とりまとめ送信〕

メモリーに読み込まれているタイマー送信用のメッセージの中に、相手先と送信する時間が同じものがある場合、1回の通信で設定された時間に送信することができます。

1 → 【全てのメニュー】→【ファクス】→【送信設定】→【とりまとめ送信】を押す

2 【オン】を押す

3 を押す

便利な送信設定

送信したファクスに印刷される自分の名前と番号を登録する〔発信元登録〕

発信元登録を行うと、ファクスを送信したとき、登録した情報（お客様の名前とファクス番号）が相手側の用紙の先頭に印刷されます。

1  → 【全てのメニュー】 → 【初期設定】 → 【発信元登録】を押す

2 以下の手順で発信元を登録する

- 1 【ファクス】 → ファクス番号を入力 → 【OK】
- 2 【電話】 → 電話番号を入力 → 【OK】
- 3 【名前】 → 名前を入力 → 【OK】

補・足

- ファクス番号と電話番号は、20桁まで登録できます。カッコ【()】、ハイフン【-】は登録できません。
- 名前は20文字まで登録できます。
- 電話とファクスを同一回線（1番号）で使用している場合は、ファクス番号と電話番号が同じ番号になりますのでファクス番号を入力してください。

3  を押す

補・足

- リモートセットアップ機能を利用すると、パソコンから発信元を登録することもできます。詳しくは⇒ユーザーズガイド パソコン活用＆ネットワークを参照してください。
- 文字入力のしかたについては⇒58ページ「文字を入力する」を参照してください。
- 発信元データ（ファクス番号、電話番号、名前）を登録しないと、送付書を送信することはできません。送付書については⇒29ページ「送付書を付けて送信する」を参照してください。

発信元登録を消去する

1  → 【全てのメニュー】 → 【初期設定】 → 【発信元登録】 → 【ファクス】を押す

2  (1文字ずつ削除) → 【OK】を押す

補・足

を押し続けると、一括削除もできます。

3  を押す

送付書を付けて送信する

ここで変更した設定は、ファクス送信が終わると元に戻ります。設定を保持することもできます。⇒33ページ「変更したファクス送信設定を保持する」を参照してください。

注意

発信元データ（ファクス番号、電話番号、名前）を登録しないと送付書送信の設定ができません。
⇒29ページ「送信したファクスに印刷される自分の名前と番号を登録する〔発信元登録〕」を参照してください。

1 原稿をセットする

2 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。

3 【ファクス送信】を押す

- 4** 【設定変更】を押す
- 5** 上下にフリック、または【▲】/【▼】を押して【送付書】を押す
- 6** 【送付書設定】を押す
- 7** 【オン】を押す
- 8** 【送付書コメント】を押す
- 9** 送付書のコメントを選択する
- 10** 【枚数】を押す
- 11** 送信枚数を入力して【OK】を押す
- 12** ←を押して、【OK】を押す
- 13**宛先を指定して、【スタート】を押す

補・足

- オリジナルコメントの登録のしかたは⇒30ページ「送付書のオリジナルコメントを登録する」を参照してください。
- 送付書の「TO:」の名前は、あらかじめ電話帳に登録されていないと表示されません。⇒ユーザーズガイド 基本編「電話帳の基本」を参照してください。

送付書のオリジナルコメントを登録する

オリジナルコメントを作成し、送付書のコメントとして登録することができます。

- 1**  → 【全てのメニュー】→【ファクス】→【送信設定】→【送付書設定】→【送付書コメント】を押す
- 2** 以下の手順でコメントを登録する
 - 1 コメントを登録する番号(5または6)を選択
 - 2 コメントを入力→【OK】

補・足

コメントは27文字まで入力できます。文字の入力のしかたについては⇒58ページ「文字を入力する」を参照してください。

- 3**  を押す

送付書を印刷する

送付書のプリントサンプルを出力することができます。

- 1**  → 【全てのメニュー】→【ファクス】→【送信設定】→【送付書設定】→【印刷サンプル】を押す

- 2** 【はい】を押す

- 3**  を押す

ファクス送信待ちを確認または解除する

メモリー送信の待ち状況を確認できます。
メモリー送信、タイマー送信などのジョブを解除することができます。

- 1**  → 【全てのメニュー】→【ファクス】→【通信待ち一覧】を押す

2 解除する内容を選択して、【停止】を押す

確認のみのときは【H】を押します。

3 解除するときは【はい】を押す

解除を中止するときは【いいえ】を押します。

4 【H】を押す

補足

送信待ちのファクスがないときには【通信待ちはありません】と表示されます。

画質を設定する

原稿の文字の大きさや写真の有無に合わせて、画質モードを設定して、ファクスを送信することができます。

画質は以下のの中から選択できます。

- ・【標準】(標準モード)：
大きくはっきり見える文字のとき
- ・【ファイン】(ファインモード)：
小さい文字のとき
- ・【スーパーファイン】(スーパーファインモード)：
新聞のように細かい文字のとき
- ・【写真】(写真モード)：
写真を含む原稿のとき

補足

- ファイン、スーパーファインまたは写真モードで送ると、標準モードに比べて送信時間が長くなります。
- 写真モードで送信しても、相手側のファクシミリに標準モードしかない場合は、画質が劣化します。

ここで設定した画質モードは、ファクス送信が終わると【標準】に戻ります。設定を保持することもできます。⇒33ページ「変更したファクス送信設定を保持する」を参照してください。

1 原稿をセットする

2 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。

3 【ファクス送信】を押す

4 【設定変更】を押す

5 上下にフリック、【▲】/【▼】を押して【ファクス画質】を選択する

6 画質を選んで【OK】を押す

7 宛先を指定して、【スタート】を押す

原稿濃度を設定する

原稿に合わせ濃度を変更して、ファクスを送信することができます。

原稿濃度は以下のの中から選択できます。

- ・【自動】：
普通の文字の原稿が多いときに設定します。
- ・【濃く】：
えんぴつ書きなどの薄い文字を使った原稿が多い場合に設定します。
- ・【薄く】：
濃い色の原稿が多い場合に設定します。
ここで変更した設定は、ファクス送信が終わると【自動】に戻ります。設定を保持することもできます。⇒33ページ「変更したファクス送信設定を保持する」を参照してください。

1 原稿をセットする

2 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。

3 【ファクス送信】を押す

4 【設定変更】を押す

5 上下にフリック、または【▲】/【▼】を押して【原稿濃度】を選択する

6 原稿濃度を選んで【OK】を押す

7 宛先を指定して、【スタート】を押す

ガラス面の読み取りサイズを設定する

原稿台ガラスからファクスを送るとき、読み取りサイズをあらかじめ設定しておくことができます。ここで変更した設定は、ファクスの送信が終わると元に戻ります。設定を保持することもできます。
⇒ 33 ページ「変更したファクス送信設定を保持する」を参照してください。

1 原稿をセットする

2 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。

3 【ファクス送信】を押す

4 【設定変更】を押す

5 上下にフリック、または【▲】 / 【▼】を押して【原稿台スキャンサイズ】を選択する

6 読み取りサイズを選んで【OK】を押す

7 宛先を指定して、【スタート】を押す

両面原稿の読み取りを設定する

両面原稿をファクス送信する場合の読み取り方向を設定することができます。

【オフ】 / 【両面スキャン：長辺とじ原稿】 / 【両面スキャン：短辺とじ原稿】から選択します。

1 ADFに原稿をセットする

2 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。

3 【ファクス送信】を押す

4 【設定変更】を押す

5 上下にフリック、【▲】 / 【▼】を押して【両面ファクス】を選択する

6 原稿の綴じ方向を選んで【OK】を押す

7 宛先を指定して、【スタート】を押す

変更したファクス送信設定を保持する

以下のファクス送信設定を変更して保持することができます。

- ファクス画質 ⇒31ページ「画質を設定する」
 - 原稿濃度 ⇒31ページ「原稿濃度を設定する」
 - 海外送信モード ⇒27ページ「海外へ送信する〔海外送信モード〕」
 - 原稿台スキャンサイズ ⇒32ページ「ガラス面の読み取りサイズを設定する」
 - リアルタイム送信 ⇒26ページ「原稿を読み取りながら送信する〔リアルタイム送信〕」
 - 送付書 ⇒29ページ「送付書を付けて送信する」
- ここで変更された設定内容は、次回ファクス送信するときにも有効です。

1 【ファクス】を押す

みるだけ受信を設定していない場合は手順3に進んでください。

2 【ファクス送信】を押す

3 【設定変更】を押す

4 上下にフリック、または【▲】 / 【▼】を押して【ファクス画質】、【原稿濃度】、【海外送信モード】、【原稿台スキャンサイズ】、【リアルタイム送信】、【送付書】を選択し、変更が必要な設定を変更し、確認する

5 上下にフリック、または【▲】 / 【▼】を押して【設定を保持する】を押す 【はい／いいえ】と表示されます。

6 【はい】を押す

現在の設定が初期値として登録されます。

7 を押す

便利な宛名指定機能

宛先を指定するには以下の方法があります。

指定方法	詳細	準備しておくこと	参照
ダイヤルボタン	入力した番号に送信します。	—	⇒ユーザーズガイド 基本編「まずは使ってみましょう」
電話帳	電話帳に登録されている番号に送信します。	⇒ユーザーズガイド 基本編「電話帳の基本」	⇒ユーザーズガイド 基本編「電話帳を使用する」
	電話帳に登録されている名前の読みがながら番号を指定して送信します。	⇒ユーザーズガイド 基本編「電話帳の基本」	⇒35ページ「電話帳から検索する」
	本製品がLDAPサーバーと接続されている場合は、LDAPサーバー電話帳に登録されている情報を指定して送信します。	—	⇒ユーザーズガイド パソコン活用&ネットワーク
再ダイヤル	同じ相手にもう一度送信します。	—	⇒35ページ「同じ相手にもう一度送信する〔再ダイヤル〕」
自動再ダイヤル	相手先が通話中などでファクス送信できないときは、5分おきに3回まで自動で再ダイヤルします。	—	⇒35ページ「自動再ダイヤルを設定する」

注意

ボタンを押し間違えたときは、必ず  を押し、消去してから再度送信先を入力してください。

電話帳から検索する

電話帳またはLDAPサーバーに登録した番号は、登録した名前の読みがなで検索することができます。検索のしかたは以下のとおりです。

- 1 原稿をセットする**
- 2 【ファクス】を押す**
- 3 【電話帳】を押す**
- 4  を押す**
- 5 検索したい名前の読みがなの最初の文字を入力→【OK】を押す**
入力した文字から始まる名前が50音順およびアルファベット順に表示されます。
LDAPサーバーから検索された場合、検索された順に表示されます。
- 6 表示されたリストから相手先を選ぶ**
- 7 【送信先に設定】を押す**
- 8 【スタート】を押す**

補足

- 電話帳やグループダイヤルの登録のしかたについては⇒ユーザーズガイド「電話帳の基本」を参照してください。
- 登録されている相手先名称の一覧（電話帳リスト）を印刷することができます。印刷のしかたについては⇒53ページ「レポート・リストの種類」を参照してください。
- 本製品がLDAPサーバーと接続されている場合に、LDAPサーバー電話帳を検索することができます。
- 文字入力のしかたについては⇒58ページ「文字を入力する」を参照してください。

同じ相手にもう一度送信する 【再ダイヤル】

- 1 原稿をセットする**
- 2 【ファクス】を押す**
みるだけ受信を設定していない場合は手順4に進んでください。
- 3 【ファクス送信】を押す**
- 4 【再ダイヤル】を押して、最後にかけた番号が表示された後【スタート】を押す**

自動再ダイヤルを設定する

相手先が通話中などでファクス送信できなかったときに、自動で再ダイヤルするかどうかを設定します。設定は以下のの中から選択できます。

- ・【オン】：
5分おきに3回まで自動で再ダイヤルを行います。
お買い上げ時は【オン】に設定されています。
- ・【オフ】：
自動で再ダイヤルを行いません。回線が切れると、すぐに送信レポートが印刷されます。

- 1  →【全てのメニュー】→【ファクス】→【送信設定】→【自動再ダイヤル】を押す**
- 2 【オン】を押す**
- 3  を押す**

補足

- 相手先を誤ってファクス送信すると、間違った相手を何度も呼び出すことになります。正しい番号であるか確認してください。
- 自動再ダイヤルでも送信できなかったときは、送信を中止し、送信結果レポートが印刷されます。「結果」の欄が「エラー」または「話し中」であることを確認し、再度送信してください。
- 自動再ダイヤルは、自動送信時のみ有効な機能です。
- 原稿台ガラスからリアルタイム送信する場合は、自動再ダイヤルはされません。
- 送信した内容が相手先に届いても、本製品が相手先ファクスからの「受信が正しく行われたメッセージ」信号を受信できなかった場合、通信エラーと処理され、自動的に再ダイヤルします。

全体にかかる設定

ファクス送信

ファクス受信

転送・リモコン

レポート・リスト

USBダイレクト
プリント必要などきに
確認してほしいこと

ファクス誤送信防止機能（ダイヤル制限）を設定する

ファクス送信を禁止したり、誤って間違った相手にファクスを送信しないように、ダイヤル発信を制限することができます。

制限するダイヤルと制限内容は以下のとおりです。

制限の種類	操作
直接入力	① → 【全てのメニュー】→【ファクス】→【ダイヤル制限機能】→【直接入力】
電話帳	① → 【全てのメニュー】→【ファクス】→【ダイヤル制限機能】→【電話帳】
お気に入り	① → 【全てのメニュー】→【ファクス】→【ダイヤル制限機能】 →【お気に入り】
LDAP サーバー	① → 【全てのメニュー】→【ファクス】→【ダイヤル制限機能】→【LDAPサー バー】

制限の設定は以下の中から選択できます。

- ・【オフ】：
通常のファクス送信を行います。
- ・【2度入力】：
ファクス番号の再入力が求められ、正しい番号を入力した場合にのみ、ファクス送信を行います。間違った番号を入力すると、エラーメッセージが表示されます。
- ・【オン】：
ファクス送信を禁止します。

注意

- 本製品に接続されている電話機では、ファクス誤送信防止機能（ダイヤル制限）設定は働きません。
- 直接入力が【オン】に設定されている場合は、ダイヤルボタンを使用した直接入力、およびオンフック機能を使用したダイヤルボタン入力はできません。
- 外付け電話使用時や<オンフック/保留>を押してからダイヤルする場合は、「2度入力」設定はできません。
- 【オン】または【2度入力】に設定すると、同報送信は使用できません。

IPファクスの設定をする

次世代ネットワーク (NGN) でIPファクスを使用する場合、データコネクトの設定を変更する必要があります。

補足

ウェブブラウザーを使用して設定することもできます。
⇒ユーザーズガイド「パソコン活用＆ネットワーク」を参照してください。

IPファクスを設定する

IPファクスの設定は、以下の中から選択できます。

- ・【専用】：
ファクス送信がIPファクスのみとなります。ただし、手動送信の場合は、通常のファクス送信になります。
- ・【優先】：
相手先がIPファクスに対応しているかを自動的に確認し、対応していない場合には通常のファクス送信を行います。
- ・【オフ】：
通常のファクス送信のみとなります。
お買い上げ時は、【オフ】に設定されています。

1 → 【全てのメニュー】 →
【ファクス】 → 【データコネクト設定】
→ 【IPファクス】を押す

2 設定を選択する

3 を押す

補足

IP ファクスを使用する場合、TCP/IP の IP 取得方法を【Auto】または【DHCP】に設定してください。
⇒ユーザーズガイド「パソコン活用＆ネットワーク」を参照してください。

通信速度を設定する

通信速度は、以下の中から選択できます。

- ・【自動】：
お買い上げ時は、【自動】に設定されています。
- ・【標準】：64kbps
- ・【高速】：512kbps
- ・【最高速】：1000kbps

1 → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【データコネクト設定】 → 【通信速度】を押す

2 通信速度を選択する

3 を押す

補足

各通信速度の利用料金については、NTT のホームページでご確認ください。

データコネクトとは

お使いの市外局番（「03」など）から始まる電話番号を利用して、セキュアで安定した帯域確保型データ通信を実現するサービスです。送信先の機器が次世代ネットワーク (NGN) に接続していれば、データコネクトでIPファクスを使うことにより、今までよりスピーディかつ安価にファクスを送信できます。

注意

データコネクトは、NTT のフレッツ 光ネクストを契約している場合のみ利用できます。

補足

- データコネクトの設定は、設定内容リストで確認することができます。⇒53ページ「レポート・リストの種類」を参照してください。
- 「データコネクト」「フレッツ 光ネクスト」は、NTT 東日本／NTT西日本のサービスです。

特別設定について

使用状況に応じて設定をしてください。

特別回線対応を設定する

ファクスがうまく送受信できないときなどに、使用している回線を特定して設定を行ってください。

- 1**  → 【全てのメニュー】→【初期設定】→【特別回線対応】を押す
- 2** 回線を選ぶ
- 3**  を押す

補足

【PBX】に設定すると、自動的にナンバー・ディスプレイの設定が【オフ】になります。ナンバー・ディスプレイの設定を再度【オン】にするときは、特別回線対応の設定を【一般】にしてください。

ダイヤルトーン検出の設定をする

本製品を構内交換機（PBX）やIP電話アダプターに接続していると、発信できなくなる場合があります。その場合は【検知しない】にしてください。

- 1**  → 【全てのメニュー】→【初期設定】→【ダイヤルトーン設定】を押す
- 2** 設定を選ぶ
- 3**  を押す

現在の電話回線状態を確認する (電話回線診断)

本製品が現在の回線状態を診断し、結果をレポートに印刷します。

- 1** 用紙を用紙トレイにセットする
 - 2**  → 【全てのメニュー】→【ファックス】→【電話回線診断】を押す
 - 画面に【電話回線の接続状況を診断し 結果を印刷します 診断を開始しますか?／はい／いいえ】と表示されます。
 - 3** 【はい】を押す
- 回線診断が始まります。診断は、回線接続チェック→外付電話接続チェック→ダイヤルトーンチェック→回線種別チェックの順に行われます。診断が終わると、電話回線診断レポートが印刷されます。

安心通信モードを設定する

通信エラーが発生しやすい相手や回線で、ファクスをより確実に送受信したいときに設定します。

【高速】→【標準】→【安心（VoIP）】の順で送受信時間は遅くなりますが、【標準】または【安心（VoIP）】に設定することによって送受信できる可能性が高くなります。【標準】→【安心（VoIP）】の順にお試しください。

1 → 【全てのメニュー】→【初期設定】→【安心通信モード】を押す

2 設定を選択する

3 を押す

補足

- IPフォンで送信エラーが発生する場合は、電話番号の前に「0000」（ゼロを4つ）を付けておかけください。この場合、通信料金はNTTなどのお客様がご利用になっている電話会社からの請求となります。
- ファクスの送信エラーには、以下のような多くの要素があります。
 - ・通信回線の品質
 - ・信号レベル
 - ・通信相手機の影響
 - ・屋内線の配線や接続している機器の影響

本製品側だけで通信エラーを解消できるものではありません。

外線番号を設定する

構内交換機（PBX）などを利用している電話回線の環境において、外線発信するときに必要な外線（識別）番号をあらかじめ登録しておくことができます。外線番号を押してからダイヤルしたり、外線番号を付けて電話帳に登録したりする必要がなくなります。外線番号を必要としない場合は、登録しないでください。

1 → 【全てのメニュー】→【初期設定】→【外線番号】を押す

2 【オン】→【外線番号】を押す

3 あらかじめ登録するダイヤルの内容を設定して、【OK】を押す

- ・登録できる番号は最大5桁です。
- ・【0】～【9】、【*】、【#】、【!】が登録できます。

4 を押す

補足

- 【!】は、単独でしか使用できません。（他の数字、記号と組み合わせることはできません。）
- PCファクス送信時は、PCファクスの外線番号の設定が優先されます。
- ダイヤル10PPS、ダイヤル20PPS回線をご利用の場合は【*】、【#】を登録できません。

さまざまな受信方法

ファクス受信には大きく分けて2つの方法があります。

- 自動的に受信：一度設定すると、受信時の操作は必要ありません。
 - 手動で受信：受信時に本製品、または本製品に接続されている電話機を操作する必要があります。
- 以下の表を参考に受信方法を選択してください。

受信方法		内容	参照
自動的に受信	自動受信	本体から用紙に印刷	⇒ユーザーズガイド 基本編「受信モードの種類」
	メモリー代行受信	本体のメモリーで受信	⇒42ページ「メモリー代行受信について」
	メモリー受信		⇒42ページ「メモリー受信を設定する（メモリー保持）」 ⇒42ページ「メモリーに保持したファクスを印刷する」 ⇒52ページ「外出先からファクスを取り出す」
	電話呼び出し受信		⇒43ページ「電話呼び出し機能を設定する」
手動で受信	呼び出し中受信	本製品の操作で受信	⇒43ページ「呼び出し中にファクスを受信する」
		電話機のリモート操作で受信〔リモート受信〕	⇒43ページ「呼び出し中にファクスを受信する」 ⇒45ページ「本製品に接続されている電話機からファクスを受信させる〔リモート受信〕」
	通話後受信	本製品の操作で受信	⇒44ページ「通話後にファクスを受信する」
		電話機のリモート操作で受信〔リモート受信〕	⇒44ページ「通話後にファクスを受信する」 ⇒45ページ「本製品に接続されている電話機からファクスを受信させる〔リモート受信〕」
	親切受信	電話機の受話器を取って受信	⇒44ページ「親切受信で受信する」

メモリー代行受信について

以下の状況になった場合、本製品は、送られてきたファクスを自動的にメモリーに蓄積します。

- カバーが開いているとき：
【カバーが開いています】*
- 用紙がなくなったとき：
【用紙を送れません】*
- トナーがなくなったとき：
【トナーを交換してください】*
- 用紙がつまつたとき：
【紙詰まり XXXX】*
- 用紙のサイズを間違ってセットしたとき：
【用紙サイズが合いません】*

画面の指示に従って処置をすると、メモリーが代行受信したファクスを自動的に印刷します。印刷されたファクスはメモリーから消去されます。

* 状況に応じて画面に表示されるエラーメッセージです。

注意

メモリーがいっぱいになると、それ以降はメモリー代行受信できません。

メモリー受信を設定する（メモリー保持）

メモリー受信（メモリー保持）を設定すると、受信したファクスをメモリーに蓄積して、あとから印刷したり、外出先から取り出すことができます。

補助

メモリー保持と、電話呼び出し機能、ファクス転送、PCファクス受信は同時に使用できません。

1  → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【受信設定】 → 【メモリ受信】を押す

2 【メモリ保持のみ】を押す

3 を押す

補助

- メモリー保持は最大500ページまでできます。（ただしメモリーの残量や原稿の内容によって変化します。）
- 用紙がないときは、メモリー受信の設定が【オフ】に設定されていても、メモリー代行受信を行います。
- メモリーに蓄積されたファクスを外出先から取り出さないまま、メモリー受信を【オフ】にすると【ファクスを消去しますか？】と表示されます。設定を解除しないでファクスの内容をメモリーに残しておくときは、【いいえ】を押してください。【はい】を押すとメモリーから消去されます。

メモリーに保持したファクスを印刷する

メモリー保持が設定されているときに、メモリー保持でメモリーに蓄積されたファクスを印刷するとともに、メモリーから消去します。

1  → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【ファクス出力】を押す

2 【はい】を押す

補助

メモリーに何も蓄積されていないときは、画面に【データがありません】と表示されます。【閉じる】を押してください。

電話呼び出し機能を設定する

ファクスを受信すると自動的に登録した呼び出し先の電話番号にダイヤルする機能です。電話に出ると、「ポップ」という音でファクスを受信したことを探します。

補足

電話呼び出し機能と、メモリー保持、ファクス転送、PCファクス受信は同時に使用することはできません。

1  → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【受信設定】 → 【メモリ受信】を押す

2 以下の手順で電話呼び出しを設定する
1 【電話呼び出し】を押す
2 呼び出し番号を入力（最大20桁） → 【OK】

3  を押す

補足

電話呼び出し機能を設定したときは、登録しておいた電話番号にダイヤルしてファクスを受信したことを知らせます。外出先のファクシミリから受信したファクスを取り出すこともできます。⇒52ページ「外出先からファクスを取り出す」を参照してください。

注意

電話呼び出し機能の呼び出し先電話番号は、外出先から変更することはできません。

呼び出し中にファクスを受信する

呼び出しが鳴っている間に本製品に接続されている電話機の受話器を取り、ファクスを受信します。

1 呼び出しが鳴ったら、本製品に接続されている電話機の受話器を取る

2 「ポーポー」という音が受話器から聞こえたら、受信操作を行う

- 本製品から受信する
【ファクス】 → 【スタート】 → 【受信】を押します。
- 電話機のリモート操作で受信する
本製品に接続されている電話機のダイヤルボタンで、リモート起動番号（#51）を押します。
リモート受信の詳細は⇒45ページ「本製品に接続されている電話機からファクスを受信させる〔リモート受信〕」を参照してください。
- 相手と通話した後にファクスを受信する
【ファクス】 → 【スタート】 → 【受信】を押してファクスを受信します。

3 受話器を戻す

補足

- 電話に出なかったときの動作は、受信モードの設定によって異なります。受信モードについては⇒ユーザーズガイド基本編「まずは使ってみましょう」を参照し、用途に合ったモードを設定してください。
- 親切受信を【オン】に設定している場合は、受話器を上げたまま約7秒間待つと、自動でファクスを受信できます。
⇒44ページ「親切受信で受信する」を参照してください。
- 呼び出しが回数を7～10回に設定すると、特定の相手からのファクスが自動で受信できない場合があります。呼び出しが回数を6回以下に設定されることをお勧めします。詳しくは、⇒ユーザーズガイド基本編「呼び出しが回数を設定する」を参照してください。
- 相手が手動送信のファクスの場合は、受話器を取っても無音のときがありますので、相手が電話でないことを口頭で確認してから【ファクス】 → 【スタート】 → 【受信】を押してください。
- ADFに原稿がセットしてあると送信されてしまうため、ADFに原稿がセットされていないことを確認してください。ただし、リモート受信の場合は、ADFに原稿がセットされても送信されずにファクス受信します。

通話後にファクスを受信する

相手と通話した後に、回線をつないだままファクスを受信することができます。

1 相手先のファクシミリに原稿をセットし、スタートを押してもらう

2 「ポーー」という音が受話器から聞こえたら、受信操作を行う

- 本製品から受信する
【ファクス】→【スタート】→【受信】を押します。
- 電話機のリモート操作で受信する
本製品に接続されている電話機のダイヤルボタンで、リモート起動番号（#51）を押します。
リモート受信の詳細は⇒45ページ「本製品に接続されている電話機からファクスを受信させる〔リモート受信〕」を参照してください。

注意

ダイヤル回線（20PPS、10PPS）に設定してある状態でリモート受信を行うときは、本製品に接続されている電話機のトーンボタンを押してトーン（PB）信号に切り替えてから、リモート起動番号を入力します。

3 受話器を戻す

親切受信で受信する

本製品に接続されている電話機の受話器を取ったときに相手がファクスだった場合、受話器を上げたまま約7秒待つと、自動的にファクスを受信することができます。

1 →【全てのメニュー】→【ファクス】→【受信設定】→【親切受信】を押す

2 【オン】を押す

3 を押す

補足

受信時の操作

● 親切受信を【オン】に設定している場合

- 本製品に接続されている電話機の受話器を上げて、「ポーー」という音が聞こえた場合は約7秒間待つと自動的にファクス受信を始めます。画面に【受信中】と表示されたら受話器を戻します。
- 回線の状態により「ポーー」という音が聞こても、自動的にファクスに切り替わらないときがあります。そのときは、受話器を持ったまま、【ファクス】→【スタート】→【受信】を押して受信します。
- 本製品に接続されている電話機からリモート受信をすることもできます。詳しくは、⇒45ページ「本製品に接続されている電話機からファクスを受信させる〔リモート受信〕」を参照してください。

● 親切受信を【オフ】に設定している場合

- 本製品に接続されている電話機の受話器を上げて、「ポーー」という音が聞こえた場合は相手がファクスですので、【ファクス】→【スタート】→【受信】を押して受信します。このとき、ADFに原稿がセットしてあると送信されてしまうため、ADFに原稿がセットされていないことを確認してください。
- 本製品に接続されている電話機からリモート受信をすることもできます。詳しくは、⇒45ページ「本製品に接続されている電話機からファクスを受信させる〔リモート受信〕」を参照してください。

● 通話中の声や外部からの音をファクスの「ポーー」という音と誤認識し、ファクスに切り替わってしまうことがあります。そのときは親切受信の設定を【オフ】に設定してください。

● 親切受信機能は、本製品に接続されている電話機を上げてから40秒間有効です。40秒以上経過してからファクス信号が送られてきても親切受信しません。

本製品に接続されている電話機から ファクスを受信させる(リモート受信)

親切受信がうまく働かないとき、または親切受信の設定が【オフ】になっている場合は、本製品に接続されている電話機を操作してファクスを受信させることができます。

注意

ダイヤル回線(20PPS、10PPS)に設定してある状態でリモート受信を行うときは、本製品に接続されている電話機のトーンボタンを押してトーン(PB)信号に切り替えてから、リモート起動番号を入力します。

リモート受信の操作のしかた

- 1** → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【受信設定】 → 【リモート受信】を押す
- 2** もう一度【リモート受信】を押す
- 3** 【オン】 → を押す
- 4** 本製品に接続されている電話機の受話器を持ったまま、電話機のダイヤルボタンでリモート起動番号(#51)を入力する

受話器は約5秒後に戻します。
本製品がファクス受信を始めます。

補足

リモート起動番号は「#51」に設定されています。自分の好きな番号に変更することもできます。⇒45ページ「リモート起動番号を変更する」を参照してください。

リモート起動番号を変更する

リモート起動番号は自分の好きな番号に変更することができます。

お買い上げ時は「#51」に設定されています。

- 1** → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【受信設定】 → 【リモート受信】を押す
- 2** もう一度【リモート受信】を押す
- 3** 【オン】 → 【起動番号】を押す
- 4** リモート起動番号(3桁)を上書きする
- 5** 【OK】 → を押す

補足

リモート起動番号とは、本製品に接続されている電話機から、本製品をリモート受信させるときに使用するものです。

受信時の設定

受信スタンプを設定する

ファクスを印刷するときに、受信した日時と本製品の発信元情報を印刷することができます。

- 1** → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【受信設定】 → 【受信スタンプ】を押す
- 2** 【オン】を押す
- 3** を押す

注意

あらかじめ本製品の日付と時刻を正しく設定しておいてください。⇒ 14 ページ「時計を合わせる〔時計セット〕」を参照してください。

受信したファクスを両面印刷する

受信したファクスを出力する際、両面印刷するように設定できます。両面印刷できる用紙は、A4サイズ(60g/m²~105g/m²)のみです。

- 1** → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【受信設定】 → 【両面印刷】を押す
- 2** 【オン】を押す
- 3** を押す

補足

両面印刷を【オン】にすると【自動縮小】の設定に関係なく、【自動縮小】が【オン】と同じ状態で印刷されます。

自動的に縮小して印刷する

A4サイズの長さを超える原稿が送信されてきたときに、自動的に用紙に収まるように縮小して印刷する機能です。

- 1** → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【受信設定】 → 【自動縮小】を押す
- 2** 【オン】を押す
- 3** を押す

補足

- 受信した原稿の長さに応じて自動的に縮小率を決め、約375mmまでの原稿をA4サイズに収まるように縮小して印刷します。約375mmを超えた原稿は縮小せずに2枚以上に分けて印刷します。
- 自動縮小でA4サイズに収まる原稿の長さは目安です。回線の状況により変わります。
- 【自動縮小】を【オフ】に設定したときに、受信のたびに白紙がもう1枚排出されることがあります。そのときは、【自動縮小】を【オン】に設定してください。
- 送信側の原稿サイズがA3やB4などの場合は、送信側で縮小しますので、この機能を【オフ】にしても縮小して受信されます。

4 転送・リモコン

ファクス転送機能

ファクスがメモリーに蓄積されると、外出先のファクシミリへ転送（ファクス転送）したり、本製品と接続しているパソコンに転送（PCファクス受信）することができます。

他の場所のファクシミリに転送する

ファクスを受信すると転送先のファクシミリへ自動的に転送することができます。

転送したファクスの印刷設定は以下のの中から選択できます。

- 【本体でも印刷する】：受信したファクスを転送すると同時に、本製品で印刷します。
- 【本体では印刷しない】：受信したファクスを転送するだけで、本製品で印刷しません。

補足

ファクス転送とメモリー保持、電話呼び出し機能、PCファクス受信を同時に使用することはできません。

1  → 【全てのメニュー】 → 【ファクス】 → 【受信設定】 → 【メモリ受信】を押す

2 【ファクス転送】を押す

3 番号の入力方法を選択する
【手動入力】 / 【電話帳】から選びます。

【手動入力】を選んだ場合】

4 転送先のファクス番号を入力して、
【OK】を押す

【電話帳】を選んだ場合】

4 リストから転送先を選び、送信する
ファクス番号を押す

5 印刷の設定を選ぶ

6  を押す

補足

- ファクス転送番号は外出先から変更することができます。⇒52ページ「外出先からファクス転送番号（転送先の電話番号）を変更する」を参照してください。
- 転送先番号は最大20桁まで入力できます。（カッコ【（）、【】やハイフン【-】は入力できません。）
- ファクスが転送されると、メモリーに蓄積されたファクスは自動的に消去されます。
- ファクス転送を設定する前に受信したファクスは転送されません。
- ファクス転送前に停電が発生したり、転送先のファクシミリに問題が発生した場合、ファクスデータがメモリーに保存され、電源をオフにしても消去されません。

ファックスをパソコンで受信する [PCファックス受信]

受信したファックスを本製品と接続しているパソコンに転送することができます。パソコンがオフの場合は、受信したファックスを本製品に蓄積して、パソコンがオンになったときに、まとめて転送します。

転送したファックスの印刷設定は以下の通り選択できます。

- 【本体でも印刷する】：受信したファックスを転送すると同時に、本製品で印刷します。
- 【本体では印刷しない】：受信したファックスを転送するだけで、本製品で印刷しません。

補足

PCファックス受信とメモリー保持、電話呼び出し機能、ファックス転送を同時に使用することはできません。

1  → 【全てのメニュー】 → 【ファックス】 → 【受信設定】 → 【PCファックス受信】を押す

2 以下の手順でPCファックス受信を設定する

- 1 【オン】を選ぶ → 【OK】
- 2 【<USB>】またはコンピューター名を選ぶ → 【OK】
- 3 印刷の設定を選ぶ

3  を押す

注意

パソコンでファックスを受信したい場合は、本製品の【PCファックス受信】の設定を必ず【オン】にしてください。

補足

- パソコン側での「PC-FAX受信」の起動については、⇒ユーザーガイド「パソコン活用&ネットワーク」を参照してください。
- 受信したファックスのデータが本製品のメモリーに残っている場合は、手順2で【オフ】を選択しても設定はできません。【全てのファックスをプリントしますか？】または【ファックスを消去しますか？】と表示されたら【はい】を押して印刷または消去してから設定してください。
- ネットワーク接続されているパソコンでPCファックス受信を行う場合は、パソコン側で「PC-FAX受信」を起動してから行ってください。
- パソコンで受信したファックスを確認・印刷する方法やパソコンからファックスを送信する方法については、⇒ユーザーズガイド「パソコン活用&ネットワーク」を参照してください。

外出先から本製品を操作する：リモコン機能

リモコンアクセスを利用する場合は、暗証番号の設定が必要です。

暗証番号を設定する

外出先から本製品を操作するための暗証番号（3桁の数字と*）を設定します。

注意

暗証番号には、第三者に推測されやすい番号（生年月日など）を使用しないでください。

1 → 【全てのメニュー】→【ファクス】→【暗証番号】を押す

2 ダイヤルボタンで暗証番号（3桁の数字）を入力した後、【OK】を押す

（暗証番号は最後に【*】を加えた4桁の番号になります。4桁目の【*】は変えることができません。）

3 を押す

外出先から本製品を操作する

外出先のプッシュ（PB）回線に接続されているファクシミリ、またはトーン（PB）信号が送出できるファクシミリを使い、外出先から本製品を操作して、ファクス転送などの操作を行うことができます。

1 外出先のファクシミリから本製品にダイヤルする

2 本製品が応答し、無音状態の間に暗証番号（3桁の数字+①）を入力する

「ポー」という応答音が聞こえたら、本製品がファクスを受信し、メモリーに蓄積していることを示しています。

ファクスがメモリーに蓄積されていない場合は、音がしません。

3 短い「ピピッ」という応答音が続けて聞こえている間に、リモコンコードを入力する

補足

リモコンコードは、外出先から本製品に対する設定を変更するための番号です。⇒51ページ「リモコンコードで設定できる機能〔コード一覧〕」を参照してください。

4 リモコンアクセスを終了するときは、⑨⑩を入力する

補足

- トーン信号を送出できない電話機からのリモコンアクセスはできません。
- リモコンアクセスする電話機がダイヤル回線の場合は、ダイヤル後、電話機のトーンボタンを押してから暗証番号を入力します。
- 暗証番号を入力するタイミングを以下に示します。
 - ・ **ファクス専用モードのとき**
メモリー受信の場合、本製品が応答すると、約4秒間無音になりますので、この間に入力してください。また、メモリー受信が設定されていないときは、ファクス信号（ピーヒヨロヒヨロ音）の間の無音状態の間に入力してください。
 - ・ **自動切換えモードのとき**
本製品が応答すると約4秒間無音状態になりますので、この間に入力してください。
 - ・ **外付け留守電モードのとき**
本製品に接続されている留守番電話が応答した後、応答メッセージが聞こえてくる前の無音状態のときに入力してください（本製品に接続されている留守番電話に応答メッセージを録音する際はあらかじめ4～5秒くらい無音状態を入れておいてください）。
 - ・ **電話モードのとき**
呼び出しが約35回鳴るまで待った後、約30秒無音状態になりますので、この間に入力してください。
- 「ピピッ」という応答音が聞こえてこないときは、繰り返し暗証番号を入力してください。回線状態などにより、暗証番号を受けられないことがあります。
- 1つのリモコンコードの入力が終了したら、短い「ピピッ」という応答音が続けて聞こえる間に、次のリモコンコードを入力することができます。
- 間違った操作を行ったときや正しい設定・変更ができなかったときには、短い「ピピピッ」という応答音が聞こえます。正しく設定できたときは少し長い「ピー」という応答音が1回聞こえます。
- 「ピピッ」という音が続けて聞こえているときに、何もコードを入力せずに30秒以上経過すると、リモコンアクセスが終了します。
- メモリー受信されたファクスメッセージをリモコンアクセスで取り出したいときは、設定をファクス転送にしないでください。

リモコンコードで設定できる機能【コード一覧】

リモコンコードを入力することにより、本製品を以下のように操作することができます。

機能	コード
メモリー受信を解除します。(電話呼び出し、ファクス転送の設定も解除されます)	951
ファクス転送に設定します。(番号未登録時は設定できません)	952
電話呼び出しに設定します。(番号未登録時は設定できません)	953
ファクス転送番号の登録や変更をします。転送番号を登録した後、⑦を2回入力します。 転送番号を登録すると、自動的にファクス転送が設定されます。	954
メモリー受信を設定します。	956
メモリーに蓄積したファクスメッセージを取り出します。	962
メモリーに蓄積したファクスメッセージを消去します。	963
ファクスメッセージを蓄積しているかを確認します。蓄積しているときは「ピー」という音が、蓄積していないときは「ピピピッ」という音が聞こえます。	971
受信モードを【留守=外付け留守電】に変更します。	981
受信モードを【F/T=自動切換え】に変更します。	982
受信モードを【FAX=ファクス専用】に変更します。	983
リモコンアクセスを終了します。	90

上記の機能のうち、「外出先からファクスを取り出す方法(962)」と「外出先からファクス転送番号を変更する方法(954)」について手順を示します。

外出先からファクスを取り出す

- 1** 外出先のファクシミリから本製品にダイヤルする
- 2** 本製品が応答し、無音状態の間に暗証番号(3桁の数字+④*)を入力する
「ポー」という応答音が聞こえたら、本製品がファクスを受信し、メモリーに蓄積していることを示しています。
ファクスがメモリーに蓄積されていない場合は、音がしません。
- 3** 「ピピッ」という音が聞こえたら、⑨⑥②を押す
- 4** 外出先の今使用しているファクシミリのファクス番号を入力して最後に④#を2回押す
ファクス番号は最大20桁まで入力できます。
- 5** 受話器を戻す

外出先からファクス転送番号（転送先の電話番号）を変更する

- 1** 外出先のファクシミリから本製品にダイヤルする
- 2** 本製品が応答し、無音状態の間に暗証番号(3桁の数字+④*)を入力する
- 3** 「ピピッ」という音が聞こえたら、⑨⑤④を押す
- 4** 新しい転送番号をダイヤルボタンで入力して最後に④#を2回押す
転送番号は最大20桁まで入力できます。
- 5** 「ピー」の後に「ピピッ」という応答音が聞こえたら、⑨①を押して受話器を戻す

正しく設定できなかったときは、「ピピピッ」という音が聞こえます。もう一度、操作をやり直してください。

補足

- 外出先からは「*」や「#」を転送番号として登録することはできません。転送番号の間にポーズを入れたいときには、④#を1回押します。
- ④#を2回押すと転送番号の入力終了を表します。
- 受話器を持ったままにしていても、操作しているファクシミリによっては回線が切れることがありますので、その場合はもう一度かけ直した後、手順2の操作を行ってください。

5 レポート・リスト

レポート・リストの種類

本製品では、管理情報や設定内容に関するレポートおよびリストを印刷することができます。印刷できるレポートおよびリストは、以下のとおりです。

操作の入口 :  → 【全てのメニュー】 → 【レポート印刷】 →

レポート・リスト	内容
【送信結果レポート】	最新の送信・受信履歴200件の中から、送信履歴のみを表示します。または最後に送ったファックスの送信結果を印刷します。
【電話帳リスト】	電話帳やグループダイヤルに登録されている内容を印刷します。
【通信管理レポート】	送信・受信した最新の最大200件分の結果を印刷します。
【設定内容リスト】	各種機能に登録・設定されている内容を印刷します。
【プリンター設定】	プリンターの設定内容を印刷します。
【ネットワーク設定リスト】	ネットワークの設定内容を印刷します。
【ファイルリスト印刷】	メモリー内のフォントとマクロの一覧を印刷します。
【ドラム汚れ印刷】 (ドラムチェックシート)	イメージングユニットを清掃するときに、感光ドラムの汚れの場所を特定するためのチェックシートを印刷します。詳しくは、⇒ユーザーズガイド基本編を参照してください。
【無線LANレポート】	無線LANの接続状態や無線LAN情報を印刷します。
【着信履歴リスト】	着信した履歴を印刷します。

以下のレポートについては、自動的に印刷されるため、設定は不要です。

- ・ タイマー送信レポート
　タイマー送信が終了すると印刷されます。
- ・ 同報送信レポート
　同報送信が終了すると印刷されます。



用紙サイズの設定がA4、USレター以外の場合は、レポートおよびリストを印刷できません。

送信結果レポートを表示する

送信結果レポートを表示します。表示内容は、送信した最新の最大200件分の結果と詳細についてです。

1  → 【全てのメニュー】 → 【レポート印刷】 → 【送信結果レポート】を押す

2 【表示】を押す
画面に通信結果が表示されます。

3 通信結果を確認する

4  を押す

全体にかかる設定

ファクス送信

ファクス受信

転送・リモコン

レポート・リスト

USBダイレクト
プリント

必要なときに
確認してほしいこと

レポートの出力を設定する

送信結果レポートと通信管理レポートの出力に関する設定をします。

送信結果レポートの出力を設定する

ファックス送信後に送信結果を印刷するための設定をします。

送信結果レポートの出力設定は以下の通りを選択できます。

- ・【オン】：
送信後に毎回自動的に印刷します。
- ・【オン+イメージ】：
【オン】の動作に加えて、ファックスの1ページ目の画像も印刷されます。
- ・【オフ】：
通信エラーが発生したときやうまく送信できなかったときに、自動的に印刷します。
- ・【オフ+イメージ】：
【オフ】の動作に加えて、ファックスの1ページ目の画像も印刷されます。
- ・【レポート出力しない】：
送信結果レポートは印刷されません。

補足

リアルタイム送信時には画像は印刷されません。

通信管理レポートの出力間隔を設定する

- 1 → 【全てのメニュー】 → 【ファックス】 → 【レポート設定】 → 【通信管理レポート】を押す

2 以下の手順で間隔を設定する

- 1 【通信管理レポート】を押して、出力間隔を選ぶ
- 2 必要に応じて【印刷時刻指定】を押し、印刷時刻を入力→【OK】
印刷時刻指定は、【50件ごと】、【レポート出力しない】以外を選択した場合のみ必要です。
必要に応じて【曜日指定】を押し、曜日を選ぶ
曜日指定は、【7日ごと】を選択した場合のみ必要です。

補足

通信管理レポートの出力開始時間になる前に200件になったときは、通信管理レポートが自動で印刷されメモリーから消去されます。

- 3 を押す

- 1 → 【全てのメニュー】 → 【ファックス】 → 【レポート設定】 → 【送信結果レポート】を押す

- 2 印刷する送信結果レポートの出力設定を選ぶ

- 3 を押す

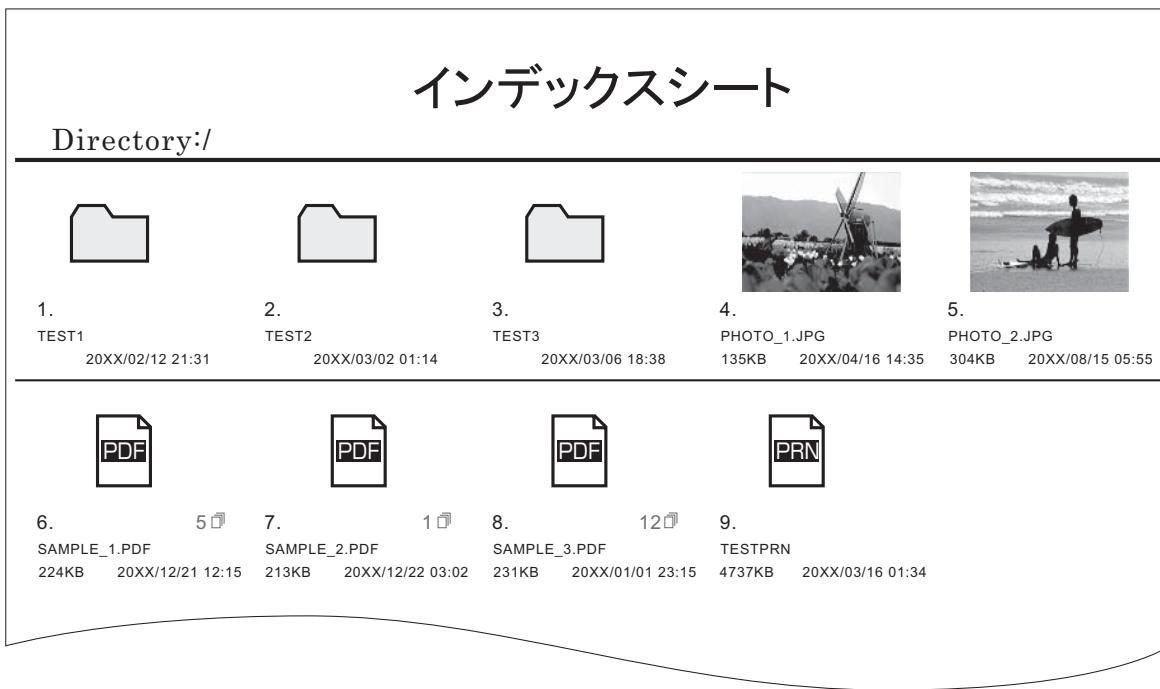
6 USB ダイレクトプリント

フォルダー構成やデータの一覧を印刷する

USBメモリー内にあるフォルダー構成やデータの一覧を印刷できます。(インデックス印刷)

フォルダーのアイコン、フォルダーナー、更新年月日、および時刻が印刷されます。

ファイル形式を表すアイコンまたはサムネイル、ファイル名、ファイルサイズ、更新年月日、および時刻が印刷されます。PDFファイル、TIFFファイル、XPSファイルの場合は、ページ数も印刷されます。印刷できないデータのアイコンは「?」で印刷されます。



1 USBメモリーをUSBメモリー差込口に接続する

すでにUSBメモリーが接続されている場合は、待ち受け【便利な機能2】画面から【USB】を押してください。

2 【USBダイレクトプリント】→【インデックスプリント】を押す

3 【はい】を押す

【USBメモリを抜かないでください】が表示されている間はUSBメモリーを抜かないでください。

4 を押す

操作パネルから印刷の設定をする

印刷に関するさまざまな設定は操作パネルから行います。設定した内容は次に変更するまで保存されます。

操作の入口：【USBダイレクトプリント】→【デフォルト設定】→

機能の種類	内容
【用紙タイプ】	印刷する用紙のタイプを設定します。
【用紙サイズ】	印刷する用紙のサイズを設定します。
【レイアウト】	レイアウトを設定します。
【印刷の向き】	印刷する方向を設定します。
【部単位】	部単位で印刷するかどうかを設定します。
【プリント画質】	印刷の画質を設定します。 【きれい】を選択すると、印刷に時間がかかることがあります。
【PDF オプション】	PDFデータを印刷するとき、印刷する内容を設定します。
【インデックスプリント】	インデックスシートの印刷方式を【簡易】または【詳細】に設定します。

文字を入力する

発信元登録、電話帳の登録などでは、タッチパネルの画面に表示されるキーボードや、操作パネル上のダイヤルボタンを使って文字を入力します。入力できる文字は、メニューによって異なります。

入力画面例

ひらがな/漢字入力画面



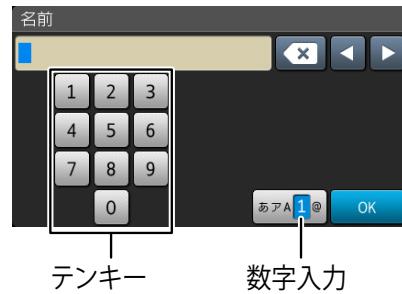
カタカナ入力画面



アルファベット入力画面



数字入力画面



記号入力画面



ひらがな/カタカナの文字の割り当て

ひらがな

ボタン	入力できる文字	ボタン	入力できる文字
【あ】	あいうえお あいうえお	【ま】	まみむめも
【か】	かきくけこ	【や】	やゆよやゅよ
【さ】	さしすせそ	【ら】	らりるれろ
【た】	たちつてとっ	【わ】	わをん
【な】	なにぬねの	【ー】	ー
【は】	はひふへほ	【。】	(濁点、半濁点)

カタカナ

ボタン	入力できる文字	ボタン	入力できる文字
【ア】	アイウエオ アイウエオ	【マ】	マミムメモ
【カ】	カキクケコ	【ヤ】	ヤユヨヤュヨ
【サ】	サシスセソ	【ラ】	ラリルレロ
【タ】	タチツテトッ	【ワ】	ワラン
【ナ】	ナニヌネノ	【ー】	ー
【ハ】	ハヒフヘホ	【。】	(濁点、半濁点)

機能ボタンの使いかた

文字種の変更、入力した文字の変換・確定などは以下のボタンを使って行います。

したいこと	操作のしかた
文字を入れる	あ～、ア～、A～、1～、 !～を押す
文字の種類を切り替える	あアア1@を押す (ひらがな→カタカナ→アルファベット→数字→記号→ひらがな)
アルファベットの大文字と小文字を切り替える	↑aAを押す
カーソルを左右に移動する	◀ ▶を押す
文字を削除する	✖を押す <ul style="list-style-type: none"> カーソルが文字列の最後の後方にあるときは、カーソルの左の1文字を削除する カーソルが文字列上にあるときは、カーソル位置の1文字を削除する ✖を長押しする 全ての文字を削除する
文字を挿入する	◀ ▶を押してカーソルを移動し、文字を入力する
ひらがなを漢字に変換する	変換を押して、漢字を選択します。 (漢字項目が多い場合は、上下にフリック、または【▲】/【▼】を押して漢字を選択します。)
スペース(空白)を入れる	【スペース】を押す
同じボタンで続けて文字を入力する	▶を押してカーソルを1文字分移動させて入力する
入力した文字を確定させる	確定を押す

補足

変換範囲を変更することはできません。

入力制限 (入力できる文字の種類や文字数)

項目	ひらがな ・漢字	カタカナ	英字・ 数字・ 記号	入力 文字数
宛先番号	×	×	○※	20
ヨミガナ	×	○	○	16
名前	○	○	○	16

- ※ 電話帳登録での宛先番号入力時は、0～9、「*」、「#」、ポーズ（約3秒の待ち時間）のみ入力できます。
ポーズは【ポーズ】で入力します。入力したポーズは画面に【p】で表示されます。
発信元登録での電話番号入力時は0～9、「+」（先頭のみ）、スペースのみ入力できます。ハイフンは入力できません。

補足

漢字はJIS第一水準および第二水準に対応しています。

入力例

例：タッチパネルを使って、「鈴木エリ」と入力する場合

操作のしかた	画面表示
【さ】を3回押す	す
【▶】を1回押す	す
【さ】を3回押す	すす
【゜。】を1回押す	すす
【か】を2回押す	すすき
【変換】を1回押す	スズキ すすき 鈴木 画面に変換候補が表示されます。
【鈴木】を押す	鈴木
【あアA1@】を1回押す	入力できる文字の種類が「カタカナ」に替わります。
【ア】を4回押す	鈴木工
【ラ】を2回押す	鈴木エリ

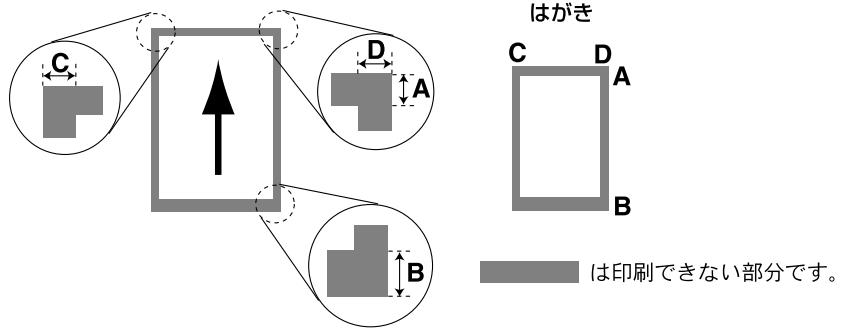
用紙のこと

本製品で使用できる用紙について説明します。

用紙の印刷可能範囲

用紙には印刷できない部分があります。

以下の図と表に、印刷できない部分を示します。なお、図と表のA、B、C、Dはそれぞれ対応しています。



(単位 : mm)

サイズ	モード	A	B	C	D
A4	ファクス	3.0	3.0	1.0	1.0
	コピー	3.0	3.0	2.0	2.0
	プリンター	4.2	4.2	4.2	4.2

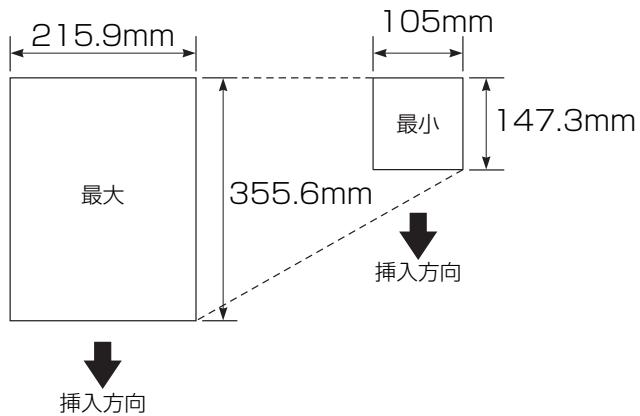
補足

印刷できない部分の数値（表中のA、B、C、D）は、目安として参考にしてください。また、お使いの用紙やプリンタードライバーによっても値が変わってきます。

原稿のこと

原稿サイズ

ADFにセットできる原稿サイズは次のとおりです。これ以外のサイズの原稿は、原稿台ガラスにセットしてください。



坪量 : 64g/m² ~ 90g/m²
(ADF 使用時)

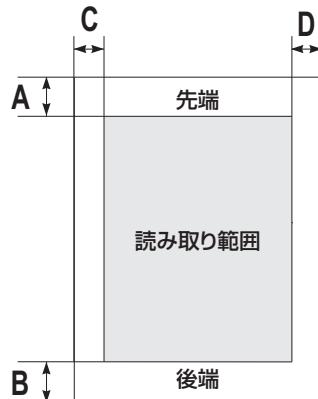
最大質量 : 2kg (原稿台ガラス使用時)

補・足

- 原稿の種類や形状に応じて、ADFか原稿台ガラスのどちらかを選択してください。
- ADFに原稿があるときはADFから読み込まれます。ADFに原稿がないときは原稿台ガラスから読み込まれます。

原稿の読み取り範囲

A4サイズの原稿を ADF または原稿台ガラスにセットした場合の最大読み取り範囲は次のとおりです。



(単位 : mm)

機能	A	B	C	D
ファクス	3		原稿台ガラス : 3 ADF : 1	
コピー	4		3	
スキャン	3		3	

補・足

- 原稿の読み取り範囲は、目安として参考にしてください。
- 原稿を読み取る範囲と用紙に印刷できる範囲が異なります。⇒61ページ「用紙の印刷可能範囲」を参照してください。

製品情報

製品情報の確認/印刷

操作の入口 :  → 【全てのメニュー】 → 【製品情報】 →

機能の種類		内容
確認	【シリアル No.】	シリアル番号を表示します。
	【ファームウェアバージョン】	以下のファームウェアバージョンを表示します。 • Main • Sub1
	【印刷枚数表示】	以下の項目について印刷した枚数を表示します。 • 合計 • ファックス • コピー • プリンター • その他

操作の入口 :  → 【全てのメニュー】 → 【製品情報】 → 【消耗品寿命】 →

機能の種類		内容
確認	【ドラム寿命】	イメージングユニットの寿命を表示します。
	【ヒーター 寿命】	定着器ユニット（ヒーター）の寿命を表示します。
	【レーザー 寿命】	レーザーユニットの寿命を表示します。
	【PF キットMP 寿命】	多目的トレイ用のローラーホルダーと分離パッドの寿命を表示します。
	【PF キット1 寿命】	用紙トレイ1用のローラーホルダー、分離パッド、分離パッドバネの寿命を表示します。
	【PF キット2 寿命】*	用紙トレイ2用のローラーホルダー、分離パッド、分離パッドバネの寿命を表示します。
	【PF キット3 寿命】*	用紙トレイ3用のローラーホルダー、分離パッド、分離パッドバネの寿命を表示します。

* : ペーパーフィーダーユニット（オプション）装着時のみ表示されます。

補足

表示される寿命はあくまで目安です。

操作の入口 :  → 【全てのメニュー】 → 【プリンター】 → 【プリンター オプション】 →

機能の種類		内容
印刷	【フォントリスト】 → (印刷する項目を選択) → 【はい】	本製品の内蔵フォントを印刷します。
	【テストプリント】 → 【はい】	印刷の品質をテスト印刷します。

設定機能の初期化

初期化とは

各種機能の設定内容をお買い上げ時の状態に戻したり、電話帳に登録した情報をすべて消去したりすることができます。

初期化できる設定は以下のとおりです。

注意

- 初期状態に戻すと、設定・電話帳などの内容は元に戻せません。初期状態に戻す前に、電話帳に登録されている電話番号は印刷して保存しておいてください。⇒53ページ「レポート・リストの種類」を参照してください。
- セキュリティ設定ロックがオンになっていると、初期状態に戻す機能は使用できません。セキュリティ設定ロックをオフにしてください。⇒22ページ「セキュリティ設定ロックをオフにする」を参照してください。

機能の種類	内容	操作
プリンター設定	【工具】→【全てのメニュー】→【プリンター】で設定した項目をお買い上げ時の状態に戻します。	【工具】→【全てのメニュー】→【プリンター】→【プリンターリセット】
機能設定	コピー、ファクスなど各種機能でご使用に合わせて設定した内容をお買い上げ時の状態に戻します。	【工具】→【全てのメニュー】→【初期設定】→【設定リセット】→【機能設定リセット】
ネットワーク設定	ネットワークに関して設定した内容をお買い上げ時の状態に戻します。	【工具】→【全てのメニュー】→【初期設定】→【設定リセット】→【ネットワーク設定リセット】
記憶消去	マクロデータ、フォントデータをお買い上げ時の状態に戻します。	【工具】→【全てのメニュー】→【基本設定】→【記憶消去】→【フォーマット】

機能の種類	内容	操作
電話帳・ファックスの登録情報	<p>以下の項目の設定をお買い上げ時の状態に戻します。メモリーに受信したファクスデータも消去されます。未読のファックスがないかをあらかじめご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様の名前・電話番号 ・発信履歴の内容 ・送付書のコメント ・同報送信する相手先 ・タイマー送信する相手先 ・リモート起動番号 ・電話帳の内容 ・グループダイヤルの内容 ・着信履歴の内容 ・ファックス転送先の内容と転送設定 ・メモリーの内容（受信データ） ・PC ファックス受信データの未転送分 (パソコンに転送したファックスのデータは消去されません) ・リモコン暗証番号 ・通信管理レポート ・送信結果レポート ・回線種別設定 ・送信データ（タイマー送信／再ダイヤル） ・受信データ（メモリー受信／代行受信） ・お気に入りの内容 	 → 【全てのメニュー】 → 【初期設定】 → 【設定リセット】 → 【電話帳＆ファクスリセット】
全設定	上記すべてに関して設定した内容を初期値に戻します。	 → 【全てのメニュー】 → 【初期設定】 → 【設定リセット】 → 【全設定リセット】
出荷状態リセット	本製品のすべての設定内容や登録情報をお買い上げ時の状態に戻します。	 → 【全てのメニュー】 → 【初期設定】 → 【設定リセット】 → 【出荷状態リセット】

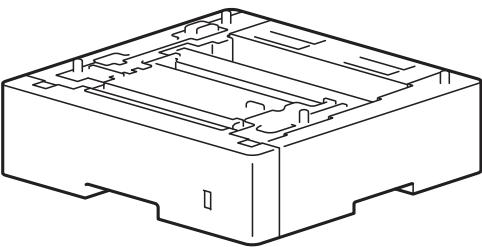
初期化のしかた

- 1**  → 【全てのメニュー】→【初期設定】/【プリンター】/【基本設定】→【設定リセット】/【プリンターリセット】/【記憶消去】を押した後、必要に応じて初期化する内容を選択する
表の「操作」を参照してください。
- 2** 【はい】を押す
【いいえ】を押すと、初期化しないで設定メニューに戻ります。
- 3** 初期化を完了する
 - プリンター設定またはフォント/マクロデータを初期化した場合
を押します。
 - プリンター設定以外を初期化する場合
【OK】を2秒間押します。
再起動しないと設定は初期化されません。

オプション

ペーパーフィーダーユニット (PF-P23/PF-P24)

ペーパーフィーダーユニットはPF-P23の場合は最大250枚 ($80\text{g}/\text{m}^2$)、PF-P24の場合は最大520枚 ($80\text{g}/\text{m}^2$)の用紙をセットすることができます。



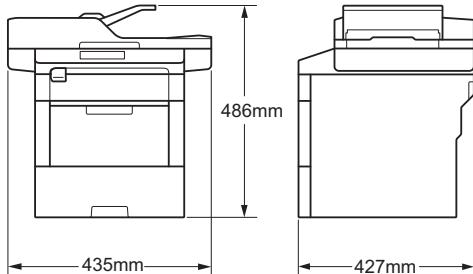
本製品への取り付け方法は、ペーパーフィーダーユニットに付属の説明書をご覧ください。

本製品の仕様

基本設定

メモリー容量	256MB
液晶ディスプレー	3.7インチ (93mm) TFTカラー液晶
電源	AC100V (50/60Hz)
ウォームアップタイム	5.8秒以下 (スリープモードから) 27秒以下 (電源投入から)
消費電力	ピーク時 1,080W
	印刷時 610W
	コピー時 610W
	スタンバイ時 37W
	電源オフ時※1 0.02W

外形寸法



質量 (消耗品を含む) 16.8kg

稼動音	音圧レベル	印刷時	55 dB(A)
		印刷時 (静音モード)	52 dB(A)
		スタンバイ時	35 dB(A)
	音響レベル	コピー時※2	72.5 dB(A)
		印刷時 (静音モード)	64.7 dB(A)
		スタンバイ時※2	48 dB(A)

温度	操作時	10~32.5°C
	保管時	0~40°C

湿度	操作時	10~80% (結露なきこと)
	保管時	35~85% (結露なきこと)

ADF 最大50枚まで

※1：消費電力は、使用環境や部品の消耗により、異なる場合があります。

※2：稼動音（音響レベル）は RAL-UZ205 規格に基づいて、ISO7779 公認機関で測定した値です。

原稿サイズ

ADF使用時	原稿サイズ 幅	146~218mm
	原稿サイズ 長さ	150~357.6mm

用紙仕様

給紙	標準用紙トレイ	用紙種類	普通紙 (60~75g/m ²)、普通紙 (厚め) (75~105g/m ²)、厚紙 (105~120g/m ²)、再生紙、ハガキ、レターヘッド、カラー用紙
		用紙サイズ	A4、レター、B5 (JIS)、A5、A5 (横置き)、A6、ハガキ (同等品)
		用紙坪量 ^{※4}	60~120g/m ² (ハガキ: 185g/m ²)
		最大給紙枚数	250枚 (80g/m ²) ハガキ: 30枚 (185g/m ²)
給紙	多目的トレイ	用紙種類	普通紙 (60~75g/m ²)、普通紙 (厚め) (75~105g/m ²)、厚紙 (105~120g/m ²)、超厚紙 (120~199g/m ²)、再生紙、ラベル紙、封筒、ハガキ、レターヘッド、カラー用紙
		用紙サイズ	ユーザー定義サイズ (幅: 69.8~216mm 長さ: 127.0~355.6mm)
		用紙坪量 ^{※4}	60~200g/m ² (ハガキ: 185g/m ²)
		最大給紙枚数	50枚 (80g/m ²) 封筒: 10枚 ハガキ: 10枚 (185g/m ²)
給紙	ペーパーフィーダユニット	用紙種類	普通紙 (60~75g/m ²)、普通紙 (厚め) (75~105g/m ²)、厚紙 (105~120g/m ²)、再生紙、レターヘッド、カラー用紙
		用紙サイズ	A4、レター、B5(JIS)、A5
		用紙坪量 ^{※4}	60~120g/m ²
		最大給紙枚数	最大1,040枚 (80g/m ²) 250枚 (PF-P23) × 2 520枚 (PF-P24) × 2
排紙 ※1	上面排紙トレイ ^{※2}	150枚 (80g/m ²)	
	バックカバー ^{※3}	1枚 ハガキ: 15枚 (185g/m ²)	
両面	自動両面印刷	用紙種類	普通紙 (60~75g/m ²)、普通紙 (厚め) (75~105g/m ²)、レターヘッド、カラー用紙、再生紙
		用紙サイズ	A4
		用紙坪量	60~105g/m ²

※1 : ラベル紙は汚れ防止のため、印刷後排紙トレイからすぐに取り出してください。

※2 : 上面排紙トレイには、印字面が下向きに排紙されます。

※3 : バックカバーには、印字面が上向きに排紙されます。

※4 : 105g/m² (28lb) より重い用紙の場合は、プリントスピードが半分になります。

ファクス

互換性	スーパー G3
圧縮方式	MH/MR/MMR/JBIG
通信速度	33,600bps (自動フォールバック付き)
受信ファクスの両面印刷	あり
自動両面送信	あり
ファクス読み取り幅	A4 (ADF) : 208mm A4 (原稿台ガラス) : 204mm レター (ADF/原稿台ガラス) : 208mm
受信ファクスの印刷幅	208 mm
グレースケール	8ビット/256階調
解像度	203×98dpi (標準) 203×196dpi (ファイン/写真) 203×392dpi (スーパーファイン)
電話帳	300件
グループダイヤル	20件
同報送信	350件
自動再ダイヤル	3回/5分間隔
メモリー送信	500枚
メモリ一代行受信*	500枚

* : A4 判 700 字程度の原稿を標準的画質 (203×98dpi) で蓄積した場合 (MMR 圧縮時)

コピー

コピー読み取り幅	A4 (ADF/原稿台ガラス) : 204mm レター (ADF/原稿台ガラス) : 210mm
複写倍率	1:1±1.4% / 50・70・83・87・91・94・97・100・115・ 141・200%・自動、25~400%の1%刻み
ファーストコピーアウトタイム*	9.2秒以下

* : スタンバイ時

スキャナー

カラー / モノクロ	あり
スキャナー解像度	ADF使用時 : 600×600dpi 原稿台ガラス使用時 : 1200×1200dpi
スキャナー読み取り幅	A4 (ADF/原稿台ガラス) : 204mm レター (ADF/原稿台ガラス) : 210mm

プリンター

自動両面印刷	あり
エミュレーション	PCL6、PDF Version 1.7、PostScript 3
解像度	1200dpi × 1200dpi
プリントスピード (A4)	片面 最高40枚/分※1※2 静音モード時：25枚/分
	両面 最高10枚/分※1※2
ファーストプリントタイム (レディー時) ※3	7.2秒以下

※1：用紙トレイから印刷した場合。

※2：プリントスピードは、印刷する文書やデータにより異なります。

※3：用紙トレイ使用時、レディーモードから印刷した場合。

インターフェイス

USB	Hi-Speed USB 2.0※1※2※3
イーサネット※4※5	10Base-T/100Base-TX
無線LAN	IEEE802.11b/g/n（インフラストラクチャモード/アドホックモード） IEEE802.11g/n（Wi-Fi Direct®）
Wi-Fi Direct®	あり

※1：2.0m 以下の USB ケーブル（タイプ A/B）を推奨します。

※2：ご使用のパソコンが Hi-Speed USB 2.0 に対応している場合。

また、USB 1.1 に対応しているパソコンでも接続することができます。

※3：サードパーティー製の USB ポートはサポートしていません。

※4：ネットワークの仕様については、⇒ユーザーズガイド パソコン活用＆ネットワークを参照してください。

※5：カテゴリー 5（10Base-T/100Base-TX 用）以上のストレートタイプのツイストペアケーブルをお使いください。

ダイレクトプリント

互換性	PDF version 1.7※、JPEG、Exif+JPEG、PRN（本製品のプリンタードライバーで作成されたデータ）、TIFF（本製品でスキャンしたデータ）
インターフェイス	USB

※：一部のJBIG2 イメージファイル、JPEG2000 イメージファイルおよびレイヤ情報を持つファイルには対応しておりません。

トナーカートリッジの交換時期

以下の2つの方法でトナーカートリッジの交換時期を検出します。

- 印刷に使用されるドット数のカウントによる検出
- 現像ローラーの回転数のカウントによる検出

本製品は、印刷に使用されるドット数と、トナーカートリッジの現像ローラーの回転数をカウントしています。このいずれかが上限値になると印刷を停止し、画質劣化や製品損傷を防ぎます。

トナーカートリッジの交換時期は、【新しいトナーを用意してください】、または【トナーを交換してください】のメッセージでお知らせします。

【新しいトナーを用意してください】は、ドット数、または現像ローラーの回転数が上限値に近づいた場合に表示されます。

【トナーを交換してください】は、ドット数、または現像ローラーの回転数が上限値になった場合に表示されます。

Wi-Fi®認証について

この製品は、Wi-Fi Alliance®のWi-Fi製品IEEE802.11b/g/n認証を受けています。Wi-Fi Alliance®認証プログラムは、IEEE無線標準規格802.11を基準とした他メーカーの無線LAN製品と互換して機能することを保証します。Wi-Fi Alliance®と認証製品については、<http://www.wi-fi.org>を参照してください。

簡単無線LAN設定

ご使用の無線LANアクセスポイントがWPS※1（PBC※2）に対応している場合、1つのボタンを押すだけで無線LAN設定ができます。詳しくは、無線LANアクセスポイントの取扱説明書を参照してください。

※1 : Wi-Fi Protected Setup™

※2 : Push Button Configuration

補足

上記の機能に対応した製品には、以下のマークが表示されています。



停電がおきたときは

停電中は本製品の機能はすべて使用できなくなります。本製品のメモリーに保存されている「各種登録、設定内容」は本製品内蔵のフラッシュメモリーに保存され、停電時も消去されません。

補足

停電復旧時は、日付や時刻などの再設定をしてください。

動作環境

OS	インターフェイス			プロセッサー
	USB ^{*1}	10Base-T/ 100Base-TX/ (イーサネット)	無線 IEEE 802.11b/g/n	
Windows®	Windows® 7 Windows® 8.1 Windows® 10	プリント PCファクス ^{*2} スキャン		32ビット (x86)(SP3) または 64ビット(x64) (SP2) プロセッサー
	Windows Server® 2008	—	プリント	32ビット(x86) または 64ビット(x64) プロセッサー
	Windows Server® 2008 R2 Windows Server® 2012 Windows Server® 2012 R2 Windows Server® 2016 Windows Server® 2019			64ビット(x64) プロセッサー
Macintosh	OS X v10.10.x OS X v10.11.x macOS v10.12.x macOS v10.13.x macOS v10.14.x	プリント スキャン		Intel® プロセッサー

※1：サードパーティー製のUSBポートはサポートしていません。

※2：PCファクスはモノクロモードにのみ対応します。

用語集

全体にかかる設定

ファックス送信

ファックス受信

転送・リモコン

レポート・リスト

USBドライブ

確認しないとほしにこと

あ

● アイコン

画面上で、ファイル、フォルダー、またはプログラムなどを示す絵文字です。

● アプリケーションソフトウェア

ワープロや表計算など、ユーザーが直接触って操作するソフトウェアです。

● イメージングユニット

用紙に画像を転写するための丸い筒状の部品です。磨耗により劣化すると印刷品質に影響が出るので交換する必要があります。

● インターフェイス

パソコンと周辺装置のように、機能や条件の違うものの間で、データをやり取りするためのハードウェアまたはソフトウェアです。

● オプション機能

標準仕様に対し、お客様の希望に応じて変更できる機能です。

か

● 海外送信

海外送信モードを設定すると、ゆっくりとしたスピードで通信します。国内でも通信状態の悪いところへ通信するときは、海外送信モードに設定しておくと、確実に通信できます。

● 回線種別

電話に使われているダイヤリングの方法です。発生したパルスを数えて検出するダイヤル式と、周波数を検出して判別するプッシュ式があります。

● 解像度

画像を読み取る細かさ、あるいは印刷する際の画像のきめ細かさ（滑らかさ）を表す単位です。スキャナーの場合は、1インチ（2.54cm）の寸法原稿を何画素で読み取れるかを表し、プリンターの場合は、印刷原稿1インチの寸法に何ドットで印字ができるかを表します。解像度が高くなるということは、画像を細かく読み取れたり、きめ細かく印刷できたりするということです。

● 機器

ハードディスクやプリンターのような、パソコンで使用されるハードウェアのことです。

● キャリアシート

新聞・雑誌の小さい切り抜きや、メモ書き、破れた原稿、反っている原稿などの状態の悪い原稿をはさんで、ファックス送信やコピーするときに使います。本製品で使用するときは、原稿台ガラス面をお使いください。

● 原稿台ガラス

コピーやファックスのときに原稿を置くところです。ここから原稿を読み取ります。

● 公衆回線

一般的のアナログ電話回線です。

さ

● 次世代ネットワーク (NGN)

電話やインターネット、放送など、目的ごとに異なるさまざまなネットワークを、IP技術を用いて統合した新しい情報通信ネットワークです。

● 親切受信

ファックスを着信したときに、間違えて本製品に接続されている電話機の受話器を取ってしまったときでも、自動的に本製品がファックス受信を行う機能です。

● スタックコピー

複数枚の原稿を複数部コピーする場合に、1枚目を希望枚数分、2枚目を希望枚数分のようにコピーしていくことです。

● スプリッター

ADSLという通信サービスを利用するときに必要な機器の1つです。音声信号とデータ信号を分けたり重ねたりする機能を備えています。

● セキュリティ IPフィルター

ネットワーク上の指定したパソコンからのみ、本製品のアクセスやプリントを許可することができます。または、任意のパソコンからのアクセスや印刷を拒否することもできます。特定のパソコンからの印刷を拒否することで、印刷による機密情報の漏洩防止や、他のワークグループからの不正印刷防止による経費削減効果が期待できます。

● セキュリティ印刷

パソコンから文書の印刷を指示するとき、パスワードを設定して本製用紙品のメモリーにデータを保存します。印刷するときは、本製品の操作パネルからパスワードを入力することで印刷ができます。機密文書などを印刷するときに活用できます。

● セキュリティ機能ロック3.0

パスワードを登録して、コピー/スキャナー/ファックス送受信/プリンターの利用を制限できる機能です。

● セキュリティ設定

パスワードを登録して、設定の変更を制限したり、印刷/ファックス送信/コピー操作の利用を制限できる機能です。

● ソートコピー

複数枚の原稿を複数部コピーする場合に、原稿1部すべてコピーした後、再度1ページ目からコピーし、希望部数分コピーしていくことです。

た

● タイマー送信

指定した時刻にファックス送信する機能のことです。深夜や早朝など、電話料金が割引される時間帯を利用して通信すると経済的です。

● ダイヤル制限

ファックス送信を禁止したり、誤って間違った相手にファックスを送信しないように制限する機能です。ファックスを送信する前に番号を確認してから送ることができます。

● タスクバー

画面の上にあるプログラムの起動やフォルダーの表示のためのボタンを配置してある場所のことです。

● 定着ユニット

紙に転写されたトナーを熱で定着するところです。

● データコネクト

お使いの市外局番（「03」など）から始まる電話番号を利用して、セキュアで安定した帯域確保型データ通信を実現するサービスです。データコネクトでIPファックスを使うことにより、今までよりスピード一かつ安価にファックスを送信できます。

● デュアルアクセス

1つの機能の動作中に別の機能を並行して処理できることです。

● 電話呼び出し機能

ファックスメッセージがメモリーに蓄えられると、外出先の電話に知らせる機能です。

● 同報送信

1つの原稿のファックスの送信時に、複数の送信先を設定して一度に送信させる機能です。

● トナー

炭素を主成分とした粉末です。画像の部分にトナーを付着させ、紙に転写し定着させることでコピーおよび印刷が行われます。

● トナーセーブ（トナー節約モード）

使用的するトナーを節約して印刷する機能です。

● ドライバー

パソコンと周辺機器の橋渡しを行うソフトウェアです。本製品に付属のCD-ROMには、プリンターやスキャナー機能のドライバーが収録されています。

● とりまとめ送信

メモリーに蓄えられているタイマー送信用のデータを、同一の相手ごとにまとめてタイマーで指定された時間に送信する機能です。

■ な

● ナンバー・ディスプレイサービス

かけてきた相手の電話番号が受話器を取る前に、電話機などの画面に表示されるサービスです。ご利用になるには電話会社との契約が必要です。

■ は

● ファックス転送

ファックスメッセージがメモリーに蓄えられると、外出先のファックスに転送させる機能です。

● プリンタードライバー

アプリケーションソフトウェアのコマンドをプリンターで使用されるコマンドに変換するソフトウェアです。

■ ま

● メモリー送信

ファックス原稿を初めに読み取り、それをメモリーに蓄えてから送信する機能です。

● メモリー代行受信

用紙がセットされていないときなど、着信したデータをいったんメモリーに蓄えておく機能です。

■ ら

● リアルタイム送信

データをメモリーに蓄えず、原稿を読み取りながら送信する機能です。原稿の枚数が多い場合でもメモリーオーバーすることなく送信できます。

● リダイヤル

相手先が話し中のときなど、再びダイヤルをすることです。

● リモート受信

本製品に接続された電話機から本製品を操作してファックスを受信する機能です。

● リモートセットアップ

本製品に対する機能設定をパソコン上で簡単に行うことができる機能です。

● リモコンアクセス

外出先から本製品をリモートコントロールして操作を行う機能です。外出先の電話からリモート起動番号を入力することで、さまざまな設定を行えます。

● ルーター

ネットワーク間（LANとLAN、LANとWAN）の接続を行うネットワーク機器の1つです。

● ログオン（ログイン）

パソコンやシステムでアクセスするときに行う操作です。

■ 数字

● 2 in 1

2枚の原稿を縮小し、1枚の用紙にコピーする機能です。

● 4 in 1

4枚の原稿を縮小し、1枚の用紙にコピーする機能です。

■ A to Z

● ADF

自動原稿送り装置。コピー、ファックス、スキャンするときに、まとめてセットしておけば自動的に原稿を1枚ずつ送り、読み取ります。

● ADSL

通常の電話回線（アナログ回線）で従来使っていたかった帯域を利用してデータを高速に伝送する通信サービスです。

● CSV形式

Comma Separated Valueの略で、レコード中の各フィールドを、コンマ（,）を区切りとして列挙したデータ形式です。Microsoft® Excel®などの表計算ソフトウェアでは、CSV形式でのデータ出力、データ入力機能が用意されています。

● DPI

Dot Per Inchの略で、1インチ（2.54cm）幅に印刷できるドット数を表す単位で、解像度を示します。

● ECM通信

Error Correction Modeの略です。通信中雑音などにより送信データが影響を受けても、自動的に影響を受けた部分だけ送り直し、画像の乱れのない通信を行います。送信側・受信側ともにECM機能を持っていないとECM通信は行われません。

● FTP

File Transfer Protocolの略で、インターネットやイントラネットなどのTCP/IPネットワークでファイルを転送するときに使われるプロトコルのことです。

● JPEG

Joint Photographic Experts Groupの略で、画像データを圧縮して保存するファイル形式の一つです。写真などのデータ保存に効果的です。

● IPフォン

インターネットを利用した通信方法で、多くのプロバイダーで行っている格安な電話サービスの総称です。一般電話回線と違い、インターネットの混み具合によって雑音が入ったり、通話が途切れるなどの問題が発生する場合があります。このような場合、ファックスでは通信エラーが発生しますので、送受信できません。

● ISDN

NTTが行っている総合デジタル通信網サービスです。「INSネット64」では、デジタル回線で電話とファックスを同時に使用することができますので、アナログ回線2本と同様な使いかたができます。

● ITU-T T.38

電話回線で使われるファックスの信号を、IPネットワーク上で通信するために規定した規格です。

● LAN

Local Area Networkの略で、同一のフロアやビルなどにあるコンピューター同士を接続したネットワークのことです。

● OCR機能

Optical Character Readerの略です。手書きの文字や印字された文字を光学的に読み取り、前もって記憶された文字のパターンと照合して文字を特定し、文字データに変換する機能です。

● OS

Operating System(オペレーティングシステム)の略で、コンピューターの基本ソフトウェア群のことです。Windows®、MacもOSの一つです。

● PC/AT互換機

IBM社が開発したパーソナルコンピューター(PC/AT)の互換コンピューターに付いた名称です。日本ではDOS/Vコンピューターともいわれます。

● PCファクス受信

受信したファクスをパソコンで画像データとして保存できる機能です。

● PCファクス送信

パソコンのアプリケーションで作成した印刷データをファクスとして送信する機能です。あらかじめ、PC ファクスの電話帳に相手先を登録しておくことで、ファクスの宛先を簡単に指定することができます。また、送付書を添付して送信することもできます。

● PDF

Portable Document Formatの略で、電子形式書類の1つです。PostScript®をベースとしたフォーマットで、Adobe® Reader®というソフトウェアを使用して閲覧できます。

● TIFF

Tagged Image File Formatの略で、画像データを保存する形式の1つです。データの型を表すタグによって、1つの画像データの中にさまざまな種類の画像形式の情報を保存できます。

● TWAIN

スキャナーなどの画像入力装置と、グラフィックソフトなどのアプリケーションとの間のインターフェイスに関する規格です。TWAIN対応の機器を使用するためには、TWAINドライバーをパソコンにインストールする必要があります。

● USBケーブル

USBは、Universal Serial Bus（ユニバーサルシリアルバス）の略。ハブを介して最大127台までの機器をツリー状に接続できるケーブルです。機器の接続を自動的に認識する機能や、パソコンの電源をオンにしたままコネクタの接続ができるホットプラグ機能を持っています。

● Vcards (vcf形式)

電子メールで個人情報をやり取りするための規格。電子メールの添付ファイルの機能を拡張して、氏名、電話番号、住所、会社名などをやり取りできます。この規格に対応するアプリケーション間では、受信時に情報が自動的に更新されます。

● WIA

Windows® Imaging Acquisitionの略で、イメージスキャナーなどの画像入力装置用プロトコルです。

索引

A	
ADF	62
ADSL	78
C	
CSV 形式	78
D	
DPI	78
E	
ECM 通信	78
F	
FTP	78
I	
IP ファクス	38
IP フォン	9, 40, 78
ISDN	78
ISDN 回線	9, 23
ITU-T T.38	78
J	
JPEG	78
L	
LAN	78
N	
NGN	76
O	
OCR 機能	78
OS	78
P	
PC/AT 互換機	78
PC ファクス受信	48, 79
PC ファクス送信	79
PDF	79
PDF オプション	57
PF キット MP 寿命	63
T	
TIFF	79
TWAIN	79

U	
USB ケーブル	79
V	
Vcards (vcf 形式)	79
W	
WIA	79
あ	
アイコン	76
明るさ	13
アプリケーションソフトウェア	76
暗証番号	49
安心通信モード	40
い	
イメージングユニット	76
印刷可能範囲	61
印刷の向き	57
印刷枚数表示	63
インターフェイス	76
インデックスプリント	57
お	
オプション	67
オプション機能	76
オリジナルコメント	30
か	
海外送信	76
海外送信モード	27
外出先から本製品を操作	49
回線種別	9, 76
外線番号	40
解像度	76
画質	31
き	
機器	76
キャリアシート	76
け	
原稿	62
原稿サイズ	62
原稿台ガラス	76
原稿濃度	31
原稿の読み取り範囲	62
検索	35

全体にかかる設定

ファクス送信

ファクス受信

転送・リモコン

レポート・リスト

USBポートダイレクト

必要なときに
ほしいこと

こ

コード一覧	51
公衆回線	76
コピー	71

さ

再ダイヤル	34, 35
-------	--------

し

時刻	14
次世代ネットワーク (NGN)	76
自動再ダイヤル	35
自動受信	41
自動的に縮小	46
自動的に受信	41
写真モード	31
受信	41
受信スタンプ	46
手動で受信	41
仕様	68
照明ダウンタイマー	13
初期化	64
シリアル No.	63
親切受信	41, 44, 76

す

スーパーファインモード	31
スキャナー	71
スタッココピー	76
スピーカー音量	10
スプリッター	76
スリープモード	11

せ

静音モード	11
製品情報	63
セキュリティ IP フィルター	76
セキュリティ印刷	76
セキュリティ機能ロック 3.0	15, 16, 76
セキュリティ設定	76
セキュリティ設定ロック	15, 21
設定内容リスト	53

そ

ソートコピー	76
操作パネル	57
送信結果レポート	53, 55
送付書	29, 30

た

タイマー送信	27, 76
タイマー送信レポート	53

タイムゾーン	14
ダイヤル回線	44
ダイヤル制限	37, 77
ダイヤルトーン検出	39
ダイヤルボタン	34
タスクバー	77

ち

着信音量	10
着信履歴リスト	53

つ

通信管理レポート	53, 55
通話後受信	41
通話後にファックスを受信	44
通話後にファックスを送信	24

て

データコネクト	38
ディープスリープモード	11
定着ユニット	77
テストプリント	63
デュアルアクセス	24, 77
転送	47
電話回線	9
電話回線診断	39
電話帳	35
電話帳リスト	53
電話呼び出し	41
電話呼び出し機能	43, 77

と

動作環境	75
同報送信	24, 77
同報送信レポート	53
特別回線対応	39
トナー	77
トナーセーブ (トナー節約モード)	77
トナー節約モード	11
ドライバー	77
ドラム寿命	63
ドラム汚れ印刷 (ドラムチェックシート)	53
とりまとめ送信	28

な

ナンバー・ディスプレイ	23, 77
-------------	--------

ね

ネットワーク設定リスト	53
-------------	----

は

パスワード	22
-------	----

発信元登録 29

ひ

ヒーター寿命	63
日付	14
表記	6
表示言語	13
標準モード	31

ふ

ファイルリスト印刷	53
ファインモード	31
ファックス	70
ファックス誤送信防止機能	37
ファックス送信待ちの確認・解除	30
ファックス転送	47, 77
フォントリスト	63
部単位	57
プリンター	72
プリンター設定	53
プリンタードライバー	77
プリント画質	57

^

ペーパーフィーダーユニット 67

ほ

ボタン確認音量＆ブザー音量 10

む

無線 LAN	74
無線 LAN レポート	53

め

メモリー受信	41, 42
メモリー送信	77
メモリーディレクト受信	41, 42, 77
メモリーに受信したファックスを印刷	42

も

文字入力 58

よ

用語集	76
用紙	8, 61
用紙サイズ	57
用紙仕様	69
用紙タイプ	57
呼び出し中受信	41
呼び出し中にファックスを受信	43

り

リアルタイム送信	26, 77
リスト	53
リダイヤル	77
リモート起動番号	45
リモート受信	45, 77
リモート受信の操作	45
リモートセットアップ	77
リモコンアクセス	77
リモコン機能	49
リモコンコード	51
両面印刷	46

る

ルーター 77

れ

レイアウト	57
レポート	53

ろ

ログオン（ログイン） 77